

CD/DVDプレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



DVP-S717D



警告

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

4～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。10ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

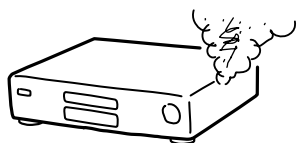
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指挟み

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



強制



プラグをコンセントから抜く

目次

安全のために	2
⚠ 警告・⚠ 注意	4
電池についての安全上のご注意	7
この取扱説明書の使いかた	8
再生できるディスクについて	8
使用上のご注意	10
ディスクの取り扱い上のご注意	10

設置と準備 11

付属品を確認する	11
テレビとつなぐ	12
アンプとつなぐ	14
5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ	16
操作音を鳴らす（お知らせビープ）	18

再生する 19

ディスクを再生する	19
速さを変えて再生する/コマ送りする	21
再生を止めたところから再生する （リジューム再生）	22
DVDのメニューを使う	23
プレイバックコントロール機能を使う （PBC再生）	24
表示窓の見かた	25

コントロールメニューでいろいろな機能を使う 27

コントロールメニューを使う	27
コントロールメニュー画面項目一覧	29
再生するタイトル／チャプター／トラック／ インデックス／シーンを選ぶ	30
経過時間と残り時間を見る	31
タイムコードを使って場面を探す	32
ディスクに名前をつける	33
音声を切り換える	34
字幕を表示する	36

アングルを切り換える	36
デジタルシネマサウンドの設定をする	37
再生の情報を見る	40
ディスクを制限する（カスタム視聴制限）	41
好きな順に再生する（プログラム再生）	43
順不同に再生する（シャッフル再生）	45
繰り返し再生する（リピート再生）	46
再生したい部分だけを繰り返す （A-Bリピート）	47
画質を調整する（画質調整）	48
映像の輪郭をはっきりさせる （デジタルビデオエンハンサー）	49
見たい場面を簡単に探す（ビューアー）	50

設定と調整 53

設定画面を使う	53
設定画面項目一覧表	55
表示言語や音声言語の設定（言語設定）	56
画像に関する設定（画面設定）	57
視聴に関する設定（視聴設定）	58
音声に関する設定（オーディオ設定）	61
スピーカーの設定をする（スピーカー設定）	63
付属のリモコンでテレビやアンプを操作する	65

その他 67

故障かな？と思ったら	67
保証書とアフターサービス	69
自己診断機能について （アルファベットで始まる表示が出たら）	70
主な仕様	71
用語解説	72
言語コード一覧表	73
各部のなまえ	74
索引	77



火災



感電

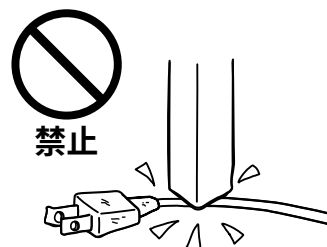
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに 触れない

感電の原因となります。



本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源
電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

また、コンセントの定格を越えて使用しないでください。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり
周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

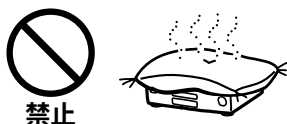
感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

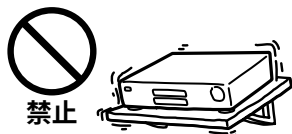
→呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

トレイの前に物を置かない

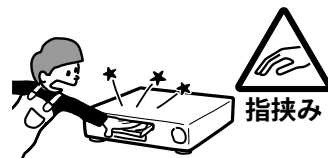
ディスクトレイが開く際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。



禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようご注意ください。



指挟み

コード類は正しく配置する

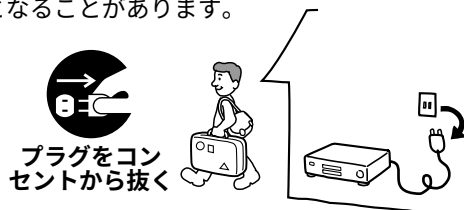
電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



禁止

電池についての 安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を
避けるため、下記の注意事項を必ずお守り
ください。

⚠ 警告

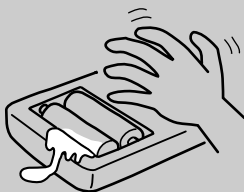
アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



接触禁止



必ず次の処理をする

→液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



強制



→液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止



⚠ 注意

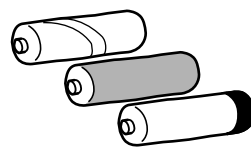
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→電池の品番を確かめ、お使いください。



禁止



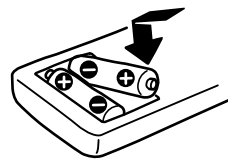
＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



強制

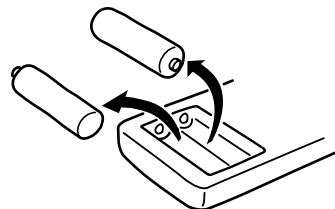


使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



強制



この取扱説明書の使いかた

- ・「設置と準備」(11～18ページ) をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- ・基本的な使いかたは、「再生する」(19～26ページ) をご覧ください。
- ・さらに進んだ使いかたについては、27ページ以降をご覧ください。
- ・この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。
	DVDビデオで使える機能です。
	ビデオCDで使える機能です。
	音楽用CDで使える機能です。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

ディスクの種類	DVDビデオ		ビデオCD		音楽用CD	
ディスクに付いているマーク (ロゴ)						
記録しているもの	音声＋映像		音声＋映像		音声	
ディスクの大きさ	12cm	8cm	12cm	8cm	12cm	8cm (CDシングル)
最長再生時間	約4時間 (片面) 約8時間 (両面)	約80分 (片面) 約160分 (両面)	74分	20分	74分	20分

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

本機はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式 (PAL、SECAM) 対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号 (リージョンコード) について

DVDには²のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または^{ALL}の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

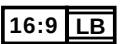
DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

再生できるディスクについて

DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。これらのマークは、ディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。ただし、機能があっても、マークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
	音声のトラック数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングル数を表します。
	選択可能な画像アスペクト比を表します。
	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

・タイトル

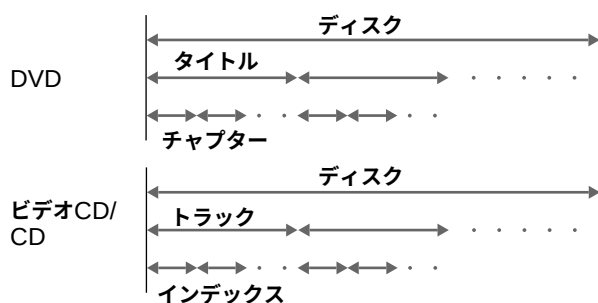
DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたります。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号といいます。

・チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。

・トラック

ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。



・インデックス (CD) /ビデオインデックス (ビデオCD)

ビデオCDおよびCDで、再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。

ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。

・シーン

PBC (プレイバックコントロール) 対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンといいます。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号といいます。

PBC (プレイバックコントロール) について (ビデオCD)

本機は、PBC対応ビデオCD (バージョン2.0) にも対応しています。(PBCとは、プレイバック コントロール Playback Controlの略です。)

ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD (バージョン1.1)	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像 (動画) を再生できます。
PBC対応ビデオCD (バージョン2.0)	上記 (PBC対応でない場合) の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面 (選択画面) を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます (PBC再生、24ページ)。また、高精細の静止画も再生できます。

本機で再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- ・CD-ROM (PHOTO CDを含む)
- ・CD-R
- ・CD-EXTRAのデータ部分
- ・DVD-ROM
- ・DVDオーディオ
- ・スーパーオーディオCDのHD (ハイデンシティ) レイヤー

DTS*で記録されたCDを再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVDプレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™の再生をお楽しみいただくには、DVDプレーヤーのデジタル出力に5.1チャンネルの外部DTS Digital Surround™デコーダーを接続する必要があります。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

* Digital Theater Systems, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTS Digital OutはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいでください。

結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

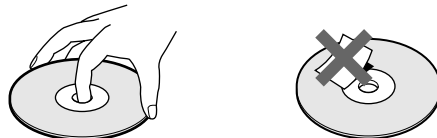
残像現象(画像の焼きつき)のご注意

DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象(画像の焼きつき)を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象(画像の焼きつき)が起こりやすいのでご注意ください。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。



保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

特殊な形状のディスクについて

本機でお使いいただける音楽CDは円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状(星形、ハート型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

設置と準備

ここでは、本機とテレビやアンプとの接続のしかたを説明します。なお、本機は映像入力端子がないテレビには接続できません。**接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。**

付属品を確認する

次の付属品がそろっているかを確認してください。

- 映像音声コード（ピンプラグ×3⇄ピンプラグ×3）（1）
- S映像コード（1）
- リモコン RMT-D120J（1）
- 単3形乾電池（R6）（2）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

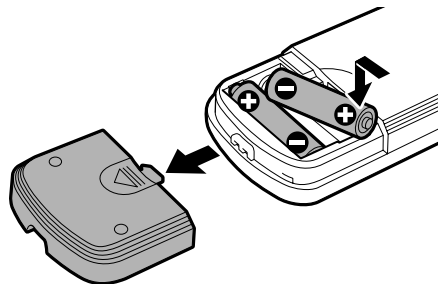
もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作することができます。

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。

本機を操作するときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。



 **リモコンでテレビやAVアンプを操作できます。**

65ページをご覧ください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

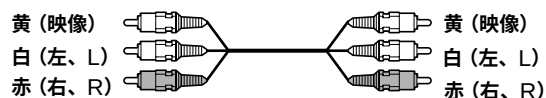
テレビとつなぐ

テレビのスピーカー（L：左、R：右）から音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

テレビのスピーカーだけでサラウンド音声を楽しめます
ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにテレビのスピーカーのみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます（VES TV：バーチャル エンハンスド サラウンド TV）。詳しくは、38ページをご覧ください。

必要な接続コード

映像音声コード（付属：1本）



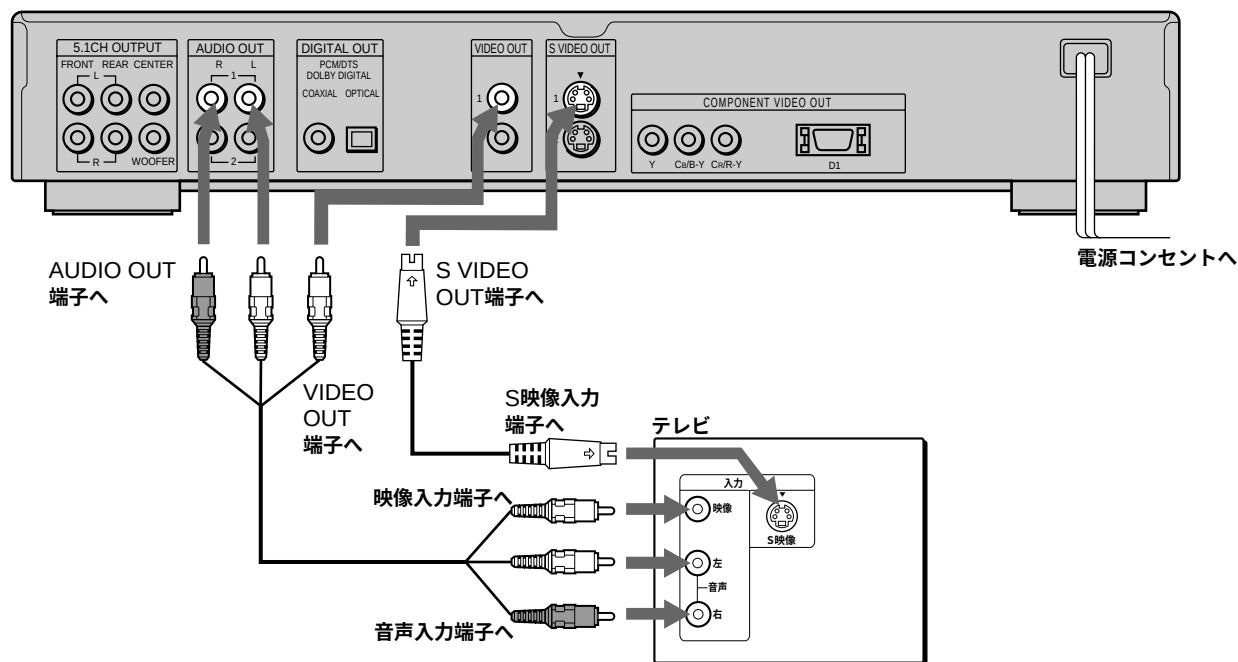
S映像コード（付属：1本）



黄（映像、VIDEO OUT）端子に黄プラグを、白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、黄色の映像コードでつなぐ代わりに、S映像コード（付属）をつなぎます。よりきれいな映像が楽しめます。

CD/DVDプレーヤー

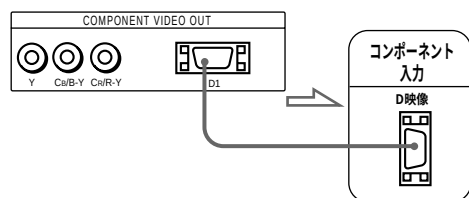


：信号の流れ

本機のCOMPONENT VIDEO OUT（コンポーネントビデオ出力）端子の信号に対応した入力端子を持つ機器につなぐときは

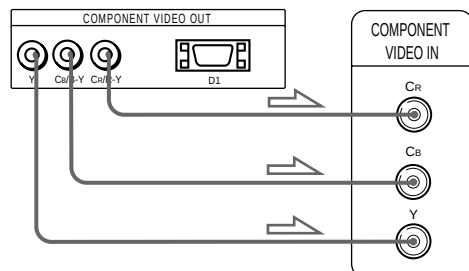
■ D1映像の信号に対応した入力端子を持つテレビにつなぐときは

D端子ケーブル（別売り）を使って、D映像入力端子につなぎます。ケーブル1本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、より高画質な画像を楽しめます。



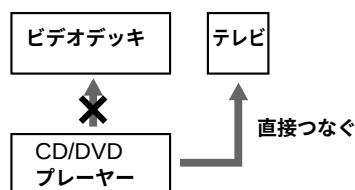
■ (Y、Cb/B-Y、Cr/R-Y) の信号に対応した入力端子を持つテレビやプロジェクターにつなぐときは

コンポーネント映像コード（別売り）、または映像コード（別売り）の同じものを3本使います。輝度（Y）、コンポーネント（Cb/B-Y、Cr/R-Y）信号がそれぞれ独立して出力されるので、映像の本来の色を忠実に再現します。



ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- パーソナルコンピュータのD端子には接続できません。
- ハイビジョン機器のハイビジョン専用コンポーネントビデオ入力（Y/Pb/Pr）には対応していません。
- 本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れることがあります。



- テレビやアンプによっては、音声出力のレベルが高いため、音が歪むことがあります。そのときは設定画面の「オーディオ設定」から「オーディオ ATT」を選んで「入」にしてください。詳しくは61ページをご覧ください。

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。

設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは53ページをご覧ください。

■ ワイドテレビまたはワイドモード機能付きのテレビとつないだとき

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「16:9」にします。お買い上げ時は「16:9」に設定されています（57ページ）。

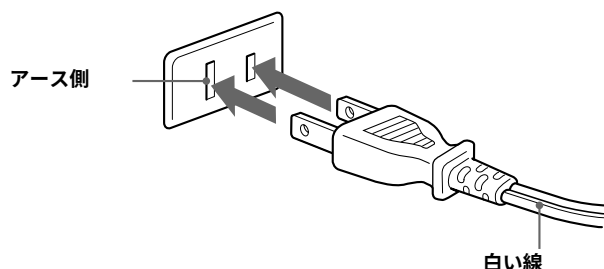
■ 通常のテレビとつないだとき

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」にします（57ページ）。

電源コードの極性について

各機器の電源コードの極性を合わせて、より良い音質で音楽をお楽しみいただくため、本機の電源コードには白い線が付いています。白い線が入っている側がコンセントの差し込み口の長い方（アース側）にくるように差し込みます。

電源コードはすべての接続が終わってから差し込んでください。



アンプとつなぐ

アンプにつないだスピーカーから音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

🔊 フロントスピーカーしかつないでいないときもサラウンド音声を楽しめます

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカー（L、R）のみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます（VES：バーチャル エンハンスド サラウンドおよび VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION）。詳しくは、38ページをご覧ください。

必要な接続コード

音声コード（別売り：1本）

白（左、L） 赤（右、R）

S映像コード（付属：1本）



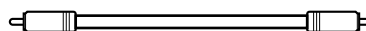
白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキにつなぐときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）または、オーディオ用同軸デジタル接続コード（別売り）を使います。

光デジタル接続コード（別売り：1本）



同軸デジタル接続コード（別売り：1本）

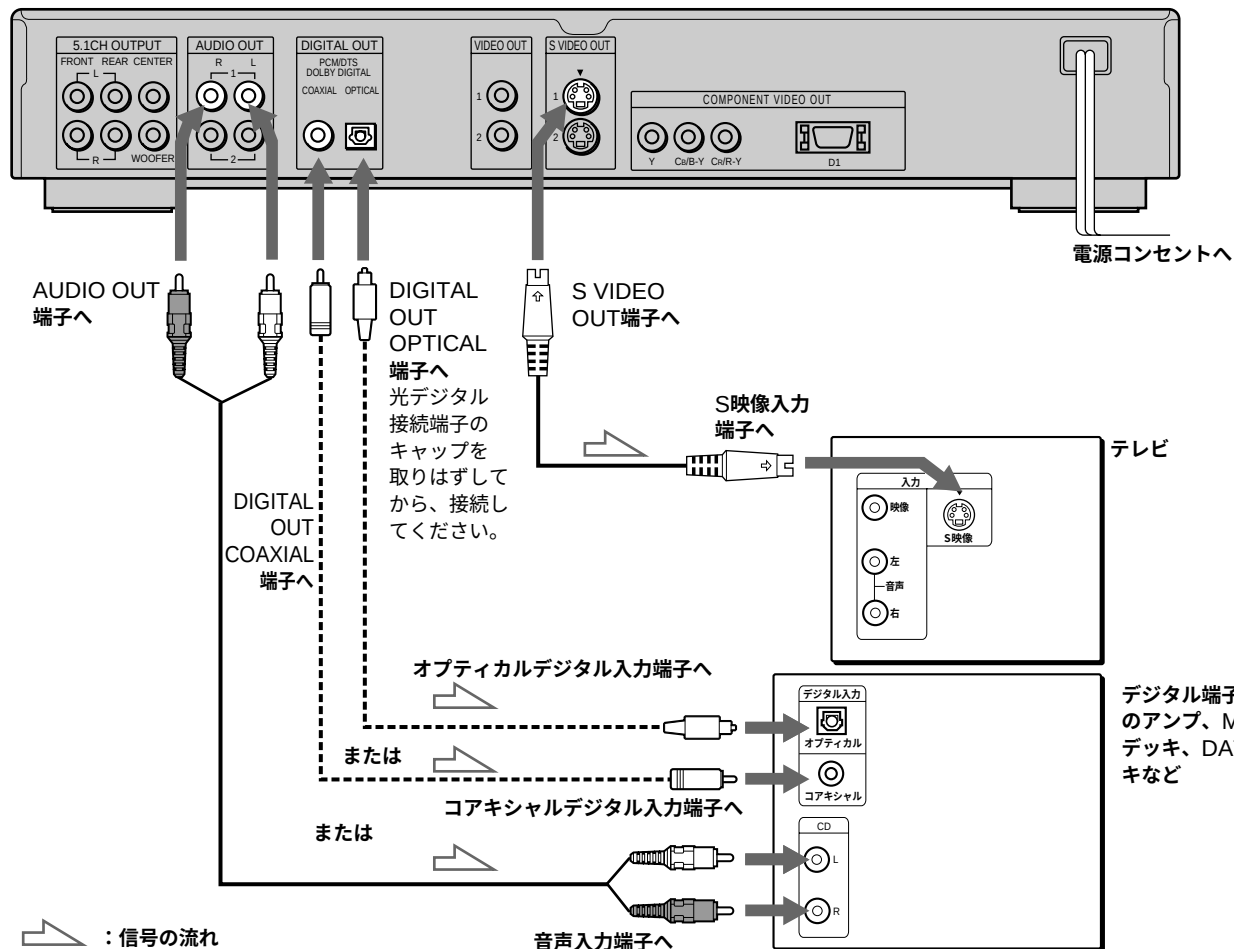


電源コードは、アンプなどの電源コンセントにつながないでください。アンプの電源を切ったときに、プレイバックメモリーやブックマーク、ディスクメモおよびメニュー設定の内容が消去されることがあります。

ご注意

テレビにS映像入力端子がないときは、S映像信号で画像を見ることはできません。テレビにS映像入力端子がないときは、黄色の映像コード（別売り）を使って本機のVIDEO OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。詳しくは12ページをご覧ください。テレビに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

CD/DVDプレーヤー



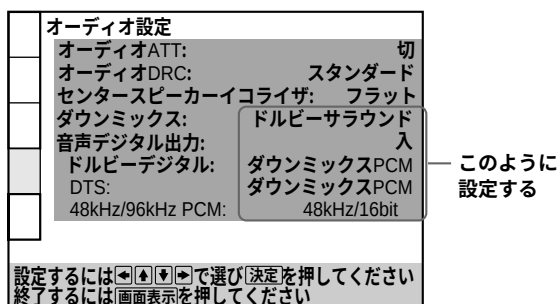
デジタル端子付きの機器とつなぐ場合の設定をする

デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキなどにつなぐときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）または、オーディオ用同軸デジタル接続コード（別売り）を使います。

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。

設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは53ページをご覧ください。

- DTSまたはドルビー*デジタルデコーダーが内蔵されていないデジタルアンプにつないで音を出するときや、MDやDATなどのデジタル機器に出力するとき
設定画面の「オーディオ設定」を次のように設定してください。これらは、お買い上げ時の設定です。



光デジタル接続コードまたは同軸デジタル接続コードを使って接続しているときは、「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「DTS」を「DTS」、「48kHz/96kHz PCM」を「96kHz/24bit」にしないでください。突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

ご注意

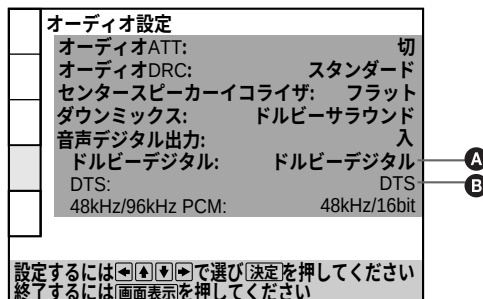
マルチチャンネルサラウンド方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。

- ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき ①

設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定してください（61、62ページ）。

- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき ②

設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「DTS」を「DTS」に設定してください（61、62ページ）。



ご注意

- ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にしないでください。
- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「DTS」を「DTS」にしないでください。
- * ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

DVDにはドルビーデジタルまたはDTS方式で、最大5.1chの信号が記録されているものがあります。5.1ch入力対応アンプとスピーカーを6個用意すれば、劇場のような臨場感をご家庭でお楽しみいただけます。

「5.1ch」とは、2個のフロントスピーカー（L、R）と2個のリアスピーカー（L、R）、センタースピーカー、サブウーファを意味します。

本機ではスピーカーが6個ない場合でも、信号成分を他のスピーカーに振り分けて出力できます。

さらに本機ではVIRTUAL 3D SURROUNDの機能により、実際のリアスピーカーの位置とは違った位置にあるような効果を出したり（VIRTUAL REAR SHIFT）、仮想スピーカーを増やしたり（VIRTUAL MULTI REAR）することができます。VIRTUAL 3D SURROUNDについて詳しくは、37ページをご覧ください。

スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむために、以下の点に留意することをおすすめします。

- なるべく性能のよいスピーカーを用意する
- フロント、リア、およびセンターとして、同じ大きさと性能のスピーカーを使う
- サブウーファはなるべくフロントスピーカー（L、R）の間に設置する

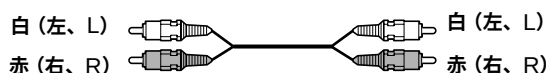
ご注意

リアスピーカーはフロントスピーカーよりも遠くに設置しないでください。

必要な接続コード

音声コード（別売り：2本）

5.1CH OUTPUT FRONT端子に1本とREAR端子に1本つなぎます。



モノラル音声コード（別売り：2本）

5.1CH OUTPUT CENTER端子に1本とWOOFER端子に1本つなぎます。



S映像コード（付属：1本）

S VIDEO OUT端子につなぎます。



白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

電源コードは、アンプなどの電源コンセントにつながらないでください。アンプの電源を切ったときに、プレイバックメモリーやブックマーク、ディスクメモおよびメニュー設定の内容が消去されることがあります。

ご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音やノイズの原因となります。
- DIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子に接続するときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）またはオーディオ用同軸デジタル接続コード（別売り）を使ってください。詳しくは、14ページをご覧ください。

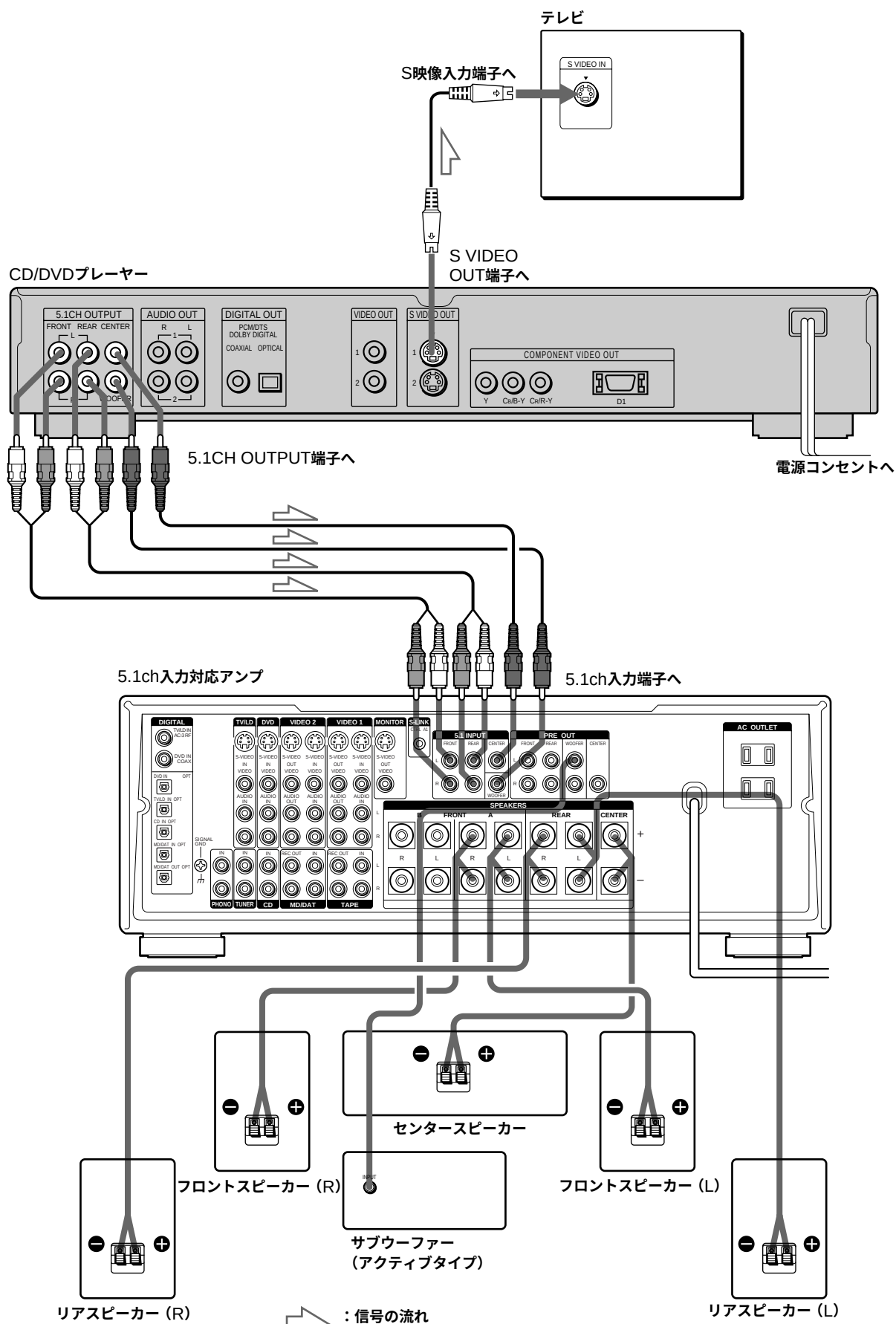
設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。

設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは53ページをご覧ください。

■ 5.1ch入力対応アンプに本機をつないでサラウンド音声を楽しむとき

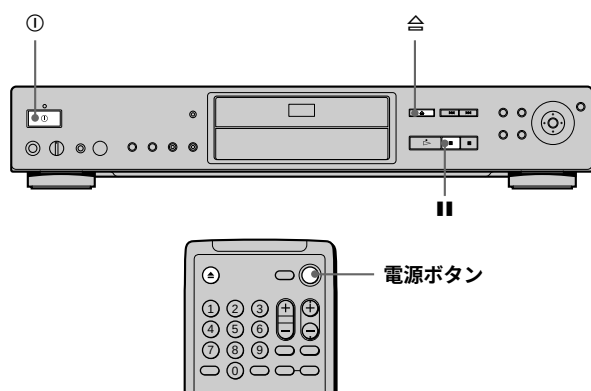
個々のスピーカーの大きさ、距離やバランスなどを設定してください。詳しくは63ページをご覧ください。



操作音を鳴らす (お知らせビープ)

次のような操作をしたときに、操作音を鳴らすことができます。
お買い上げ時は操作音が鳴らないように設定されています。

操作	操作音
電源を入れたとき	「ピッ」(1回)
電源を切ったとき	「ピピッ」(2回)
▶を押したとき	「ピッ」(1回)
⏏を押したとき	「ピピッ」(2回)
再生が止まったとき	「ピーッ」(1回長く)
禁止されている操作を行なったとき	「ピピピッ」(3回)



1 本体の①(電源)スイッチを押したあと、リモコンの電源ボタンを押す。

電源ランプが緑に点灯します。

ディスクがディスクトレイに入っているときは、会を押してディスクを取り除いたあと、もう一度会を押してディスクトレイを閉じてください。

2 本体の⏏を2秒以上押す。

「ピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が設定されます。

お知らせビープ機能を解除するときは

ディスクが入っていないときに、本体の⏏を2秒以上押します。「ピピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が解除されます。

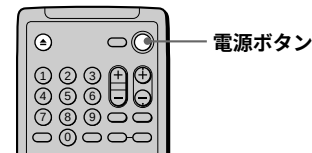
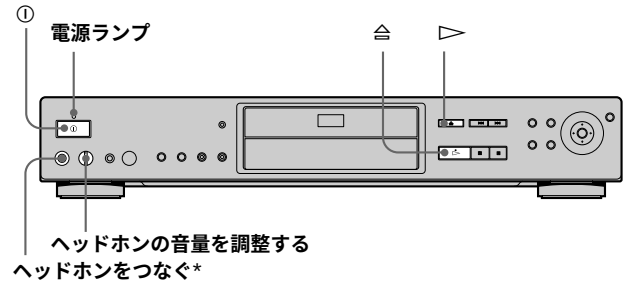
再生する

この章では、DVD、CD、VIDEO CDの再生のしかたを説明します。

ディスクを再生する

DVD VIDEO CD CD

ディスクによっては、いくつかの操作が異なることや、禁止されていることがあります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。



* VIRTUAL SURROUND HEADPHONES機能について詳しくは、「デジタルシネマサウンドの設定をする」(37ページ)をご覧ください。

1 テレビの電源を入れる。

テレビの電源を入れ、本機の画像が映るようにテレビの入力を切り換えます。

アンプを使うときは

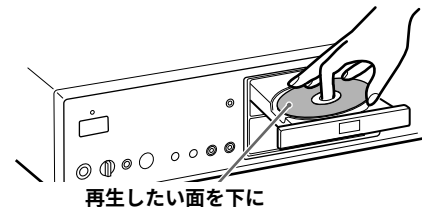
アンプの電源を入れ、本機の音声が出るようにアンプの入力を切り換えます。

2 本体の①(電源)スイッチを押す。

本機はスタンバイモード(待機状態)になり、電源ランプが赤く点灯します。

3 本体の△を押してディスクトレイを開けて、ディスクを置く。

本機は自動的に電源が入り、電源ランプが緑に点灯します。



4 ▷を押す。

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります(ふつうの再生)。テレビまたはアンプで音量を調整します。

ディスクを再生する

手順4の後に

■ DVDを再生しているとき

DVDによっては、タイトルメニューやDVDメニューが表示されることがあります。詳しくは23ページをご覧ください。

■ VIDEO CDを再生しているとき

ビデオCDによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは、表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって操作をして再生します（PBC再生）。PBC再生については、24ページをご覧ください。

電源を入れるときは

本体の①スイッチを押します。本機はスタンバイモード（待機状態）になり、電源ランプが赤く点灯します。そのあと、リモコンの電源ボタンを押すと、電源が入り、電源ランプが緑に点灯します。スタンバイモードのときは、本機の合または▶を押しても電源が入ります。

電源を切るときは

リモコンの電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、電源ランプが赤く点灯します。電源を切るときは、本体の①スイッチを押します。

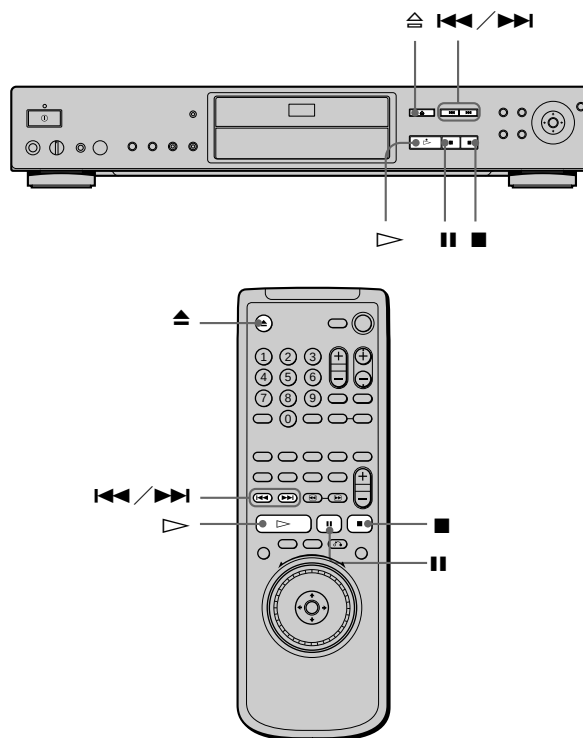
CDのDTS音声を再生するときのご注意

- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときはCDのDTS音声を再生しないでください。「オーディオ設定」の「DTS」を「ダウンミックスPCM」に設定していても、DTS音声が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- CDのDTS音声を再生するときは、コントロールメニュー画面の「音声」を「ステレオ」に設定してください(34ページ)。「1/L」または「2/R」に設定していると、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音が出ません。
- CDのDTS音声を再生するとき、AUDIO OUT端子から異音が出ることがあります。耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがないようご注意ください。

ご注意

- 停止中、または一時停止中、CD再生中に、15分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスクリーンセーバーが作動します。▷を押すとスクリーンセーバーが消えます。スクリーンセーバーについて詳しくは、57ページをご覧ください。
- ディスクを再生していないときに30分以上本機やリモコンを操作しないと自動的にスタンバイモード（待機状態）になります（オートパワーオフ機能）。
- 再生中に、本体の①スイッチを押して、電源を切らないでください。メニュー設定が解除されることがあります。
電源を切るときは、■を押して再生を停止させてから、リモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯して本機がスタンバイモード（待機状態）になったあと、本体の①スイッチを押してください。

いろいろな操作方法

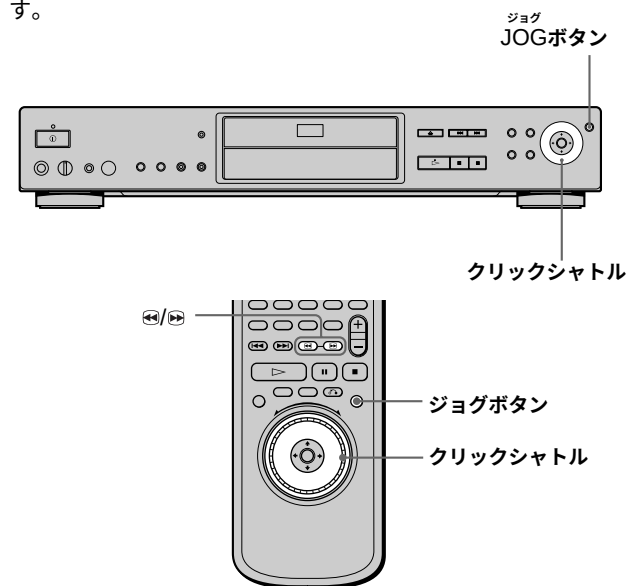


こんなときは	こうする
止める	■を押す。
途中で止める	を押す。
途中で止めたあと、つづきを再生する	または▷を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	◀◀を押す。
ディスクを取り出す	⬆を押す。

コントロールメニュー画面を使うと、プログラム再生などいろいろな再生が楽しめます。コントロールメニュー画面の操作については、27ページをご覧ください。

速さを変えて再生する/コマ送りする DVD VIDEO CD CD

クリックシャトルとジョグボタンを使って、いろいろな速さで再生したりコマ送りすることができます。ジョグボタンを押すたびに、ジョグモードとシャトルモードが切り換わりま



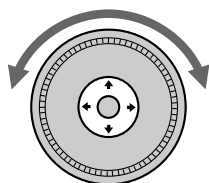
速さを変えて再生する (シャトルモード)

クリックシャトルを回す。
回す向きと角度に応じて次のように再生の速さが変わります。

DVDを再生するとき

再生中

早送り2▶▶ (通常の約30倍)
↑↓
早送り1▶▶ (通常の約10倍)
↑↓
×2▶ (約2倍速)
↑↓
再生▶ (通常の再生)
↑↓
×2◀ (逆方向：約2倍速)
↑↓
早戻し1◀◀ (通常の約10倍)
↑↓
早戻し2◀◀ (通常の約30倍)



すばやく回すと早送り2▶▶/早戻し2◀◀になります。

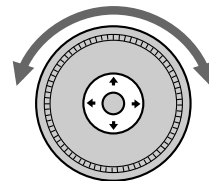
一時停止中

スロー1▶▶
↑↓
スロー2▶▶ (スロー1より遅い)
↑↓
一時停止||
↑↓
スロー2◀◀ (逆方向：スロー1より遅い)
↑↓
スロー1◀◀ (逆方向)

CD/ビデオCDを再生するとき

再生中

早送り2▶▶ (早送り1より速い)
↑↓
早送り1▶▶
↑↓
×2▶ (約2倍速—CDのみ)
↑↓
再生▶ (通常の再生)
↑↓
早戻し1◀◀
↑↓
早戻し2◀◀ (早戻し1より速い)



すばやく回すと早送り2▶▶/早戻し2◀◀になります。

一時停止中 (ビデオ CDのみ)

スロー1▶▶
↑↓
スロー2▶▶ (スロー1より遅い)
↑↓
一時停止||

ふつうの再生に戻す

▷を押す。

⏏ ボタンを使って画像を探すには (サーチ)

⏏ または ⏏ を押し続けます。再生の速さはクリックシャトルを使ったときの早戻し1◀◀または早送り1▶▶と同じです。ボタンから手を離すと、通常の再生に戻ります。

ご注意

DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

再生する

速さを変えて再生する/コマ送りする

速さを変えてコマ送りする (ジョグモード)

DVD VIDEO CD

1 ジョグボタンを押す。

ジョグモードではジョグボタンが点灯します。本体のジョグボタンを押したときは一時停止になります。

2 クリックシャトルを回す。

クリックシャトルを回す速さに応じてクリックシャトルを回した方向でコマ送りされます。
ある程度以上一定の速さになると、スローまたはふつうの再生になります。

ふつうの再生に戻る

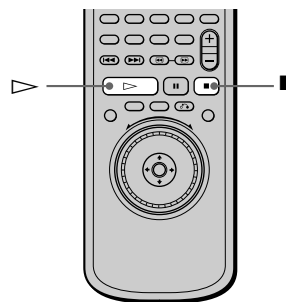
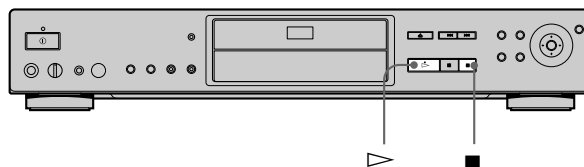
▷を押す。

ご注意

- ジョグボタンはすぐ隣のクリックシャトルがジョグモードのときだけ点灯します。本体のジョグボタンが点灯していても、リモコンのジョグボタンが点灯していなければリモコンのクリックシャトルはシャトルモードのままです。
- ジョグボタンを押してからクリックシャトルに触れないで20秒たつと、リモコンはシャトルモードに戻ります。本体ではジョグモードのままです。

再生を止めたところから再生する
(リジューム再生) DVD VIDEO CD

再生を止めたあと、表示窓に「RESUME」が表示されると、本機に再生を止めたところが記録されます。このときは、そのつづきから再生できます。ディスクトレイを開けない限り、リジューム再生はリモコンの電源スイッチを押して本機がスタンバイモード（待機状態）になっても使えます。



1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。

表示窓に「RESUME」と表示されます。また、テレビ画面には「次に再生するときは今のつづきから再生します
始めから再生するにはもういちど[停止]を押してください」と表示されます。

「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

💡 ディスクを最初から再生したいときは

停止中に再生時間が表示されているとき、■を押して再生時間表示を消してから、▷を押します。

ご注意

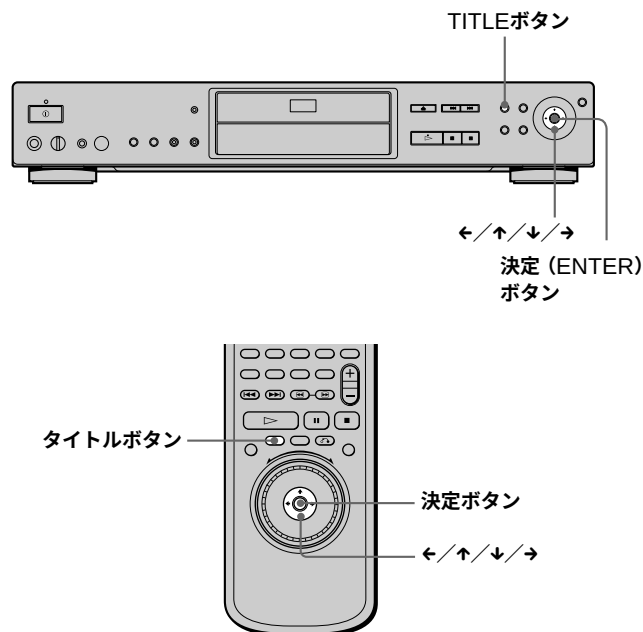
- DVDによってはリジューム再生ができない場合があります。
- シャッフルまたはプログラム再生では、リジューム再生はできません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消えます。
 - ディスクトレイを開閉したとき
 - 本体の①スイッチを押して電源を切ったとき
 - プレイモードを変えたとき
 - タイトルやチャプター、トラックを選んでから、再生を始めたとき
 - 設定画面で設定を変更したとき

DVDのメニューを使う

DVDには、タイトルメニューや、DVDメニューのようなDVD独自のメニューが記録されているものがあります。

タイトルメニューを使う

DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これらの映像や曲をタイトルといいます。複数のタイトルがあるDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。



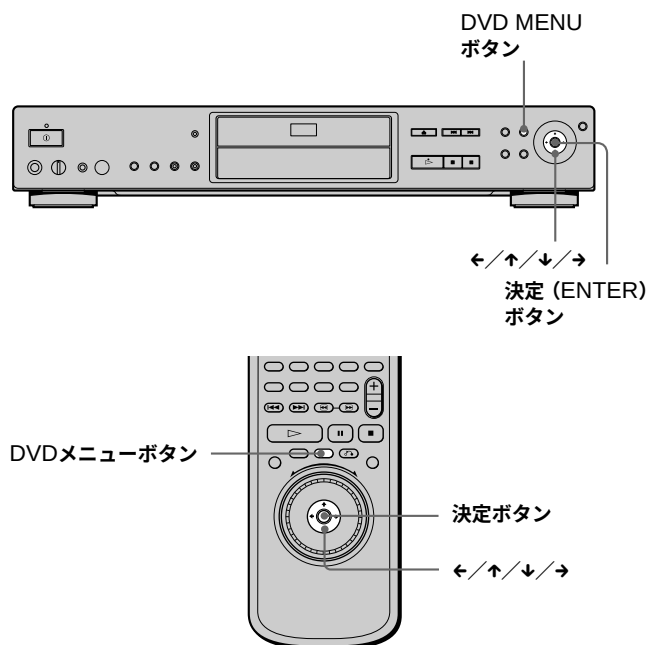
- 1 タイトルボタンを押す。**
タイトルメニューが表示されます。
タイトルの内容はディスクによって異なります。
- 2 再生したいタイトルを←/↑/↓/→で選ぶ。**
DVDによってはリモコンの数字ボタンでタイトルを選べるものもあります。
- 3 決定ボタンを押す。**
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意

- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。
- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示するものがあります。また決定ボタンを押すことを、「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

DVDメニューを使う

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。



- 1 DVDメニューボタンを押す。**
DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDにより異なります。
- 2 選びたい項目を←/↑/↓/→で選ぶ。**
DVDによってはリモコンの数字ボタンで項目を選べるものもあります。
- 3 別の項目に変更したいときは、手順2を繰り返す。**
- 4 決定ボタンを押す。**

 DVDメニューで表示される言語を変えるときは設定画面の「言語設定」の「DVDメニュー言語」で変更できます。詳しくは56ページをご覧ください。

ご注意

DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示するものがあります。

再生する

プレイバックコントロール機能を使う (PBC再生)

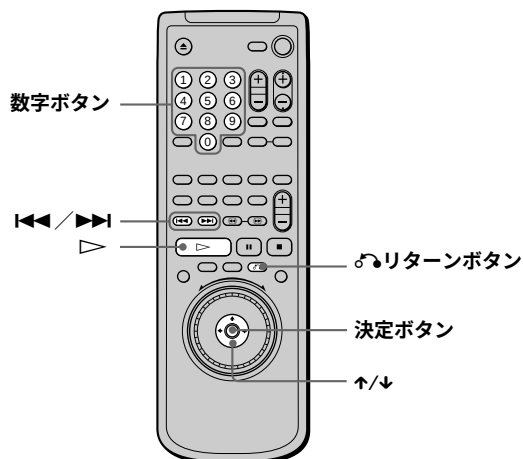
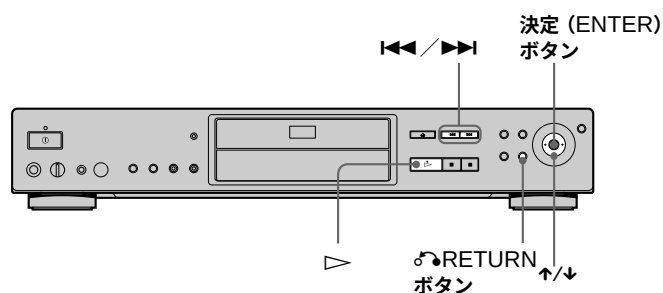
VIDEO
CD

再生する

PBC対応ビデオCD (バージョン2.0) では、PBC (プレイバックコントロール) 機能を使って、対話型の操作や検索などができます。

PBC再生とは、テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生を進めていくことです。

PBC再生で使うボタンは、数字ボタンおよび決定、◀◀、▶▶、↑/↓、⌂リターンです。



選択用のメニュー画面に戻るには

⌂リターンまたは◀◀、▶▶ボタンを押す。

💡 PBC機能を使わないで再生するときは

次の2つの方法があります。

- 停止中、◀◀または▶▶を押して再生したいトラックを選んでから、▶または決定ボタンを押す。
 - 停止中、リモコンの数字ボタンで再生したいトラック番号を押してから、▶または決定ボタンを押す。
- 画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、ふつうの再生 (トラック番号順に再生) が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▶を押して再生を始めます。

ご注意

ビデオCDによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは、▶を押してください。

- 1 「ディスクを再生する」 (19ページ) の手順1から手順4を行って、PBC対応ビデオCDの再生を始める。
- 2 選択用のメニュー画面の中で行いたい (再生したい) 項目の番号を選ぶ。
↑/↓ボタンで項目の番号を選びます。リモコンの数字ボタンで項目の番号を選ぶこともできます。
- 3 決定ボタンを押す。
- 4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。
操作の方法はビデオCDによって異なることがありますので、ビデオCDに付属の説明書もあわせてご覧ください。

表示窓の見かた



DVD

VIDEO
CD

CD

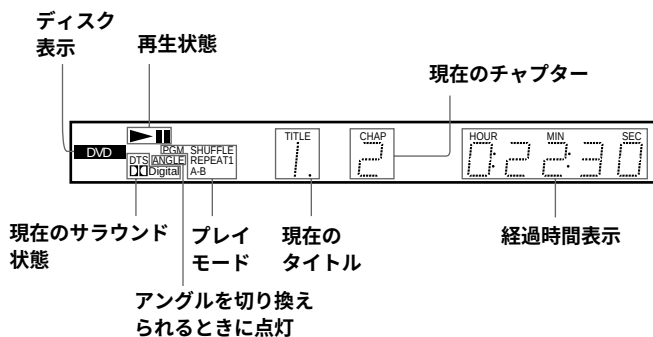
表示窓を使って、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、CD/ビデオCDの全トラック数などを調べることができます。



時間／テキストボタン

DVDを再生中のとき DVD

再生中の表示窓

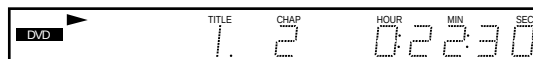


再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間／テキストボタンを押す。

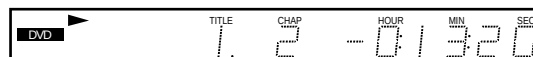
時間／テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

再生中のチャプター番号と経過時間



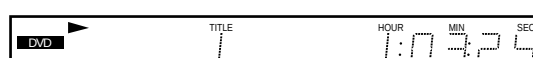
↓ 時間／テキスト
ボタンを押す

再生中のチャプターの残り時間



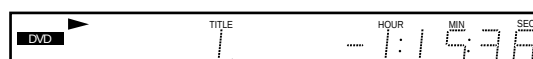
↓ 時間／テキスト
ボタンを押す

再生中のタイトル番号と経過時間



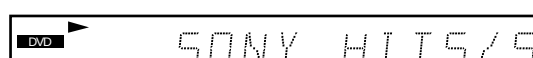
↓ 時間／テキスト
ボタンを押す

再生中のタイトルの残り時間



↓ 時間／テキスト
ボタンを押す

テキストまたはディスクメモ



時間／テキスト
ボタンを押す

ご注意

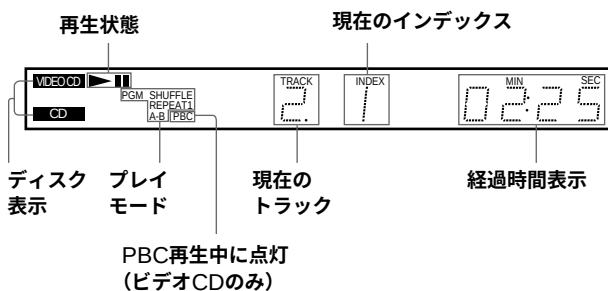
- DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示窓の表示を変えられない場合があります。
- シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、タイトル経過時間、タイトルの残り時間は表示されません。

再生する

CD/ビデオCDを再生中のとき



再生中の表示窓



💡 ビデオCDでPBC再生しているときは

トラック番号、インデックス番号の代わりに再生中のシーン番号が表示されます。このとき時間/テキストボタンを押しても表示は変わりません。

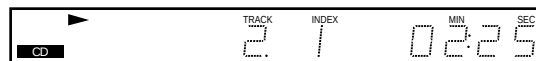
ディスクにCDテキストが記録されていれば、時間/テキストボタンを押したときにCDテキストが表示窓に表示されます。CDテキストについて詳しくは、33ページをご覧ください。

再生の残り時間を調べる

再生中、時間/テキストボタンを押す。

時間/テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

再生中のトラック番号と経過時間



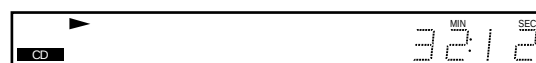
↓ 時間/テキスト
ボタンを押す

再生中のトラックの残り時間



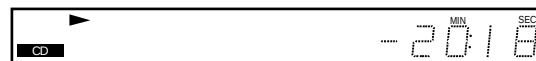
↓ 時間/テキスト
ボタンを押す

ディスク経過時間



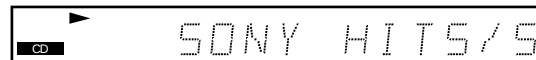
↓ 時間/テキスト
ボタンを押す

ディスク全体の残り時間



↓ 時間/テキスト
ボタンを押す

テキストまたはディスクメモ



時間/テキスト
ボタンを押す

ご注意

シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、ディスク経過時間、ディスク全体の残り時間は表示されません。

コントロールメニューでいろいろな機能を使う

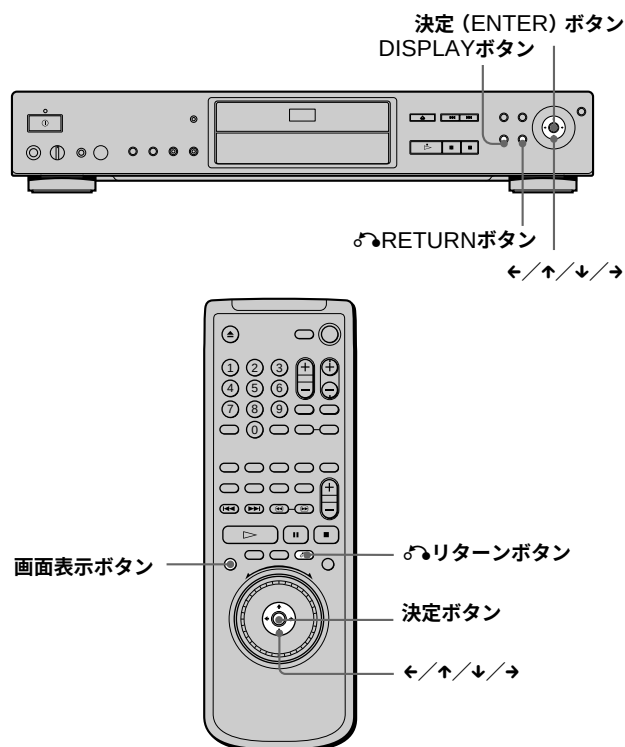
ここではコントロールメニュー画面を使ったいろいろな再生のしかたや、便利な機能の使いかたを説明します。

コントロールメニューを使う

DVD VIDEO CD

コントロールメニュー画面を使って映像や曲を探したり、好みの順で再生したり、アングルを変えたり、デジタルシネマサウンドの設定をしたりできます。

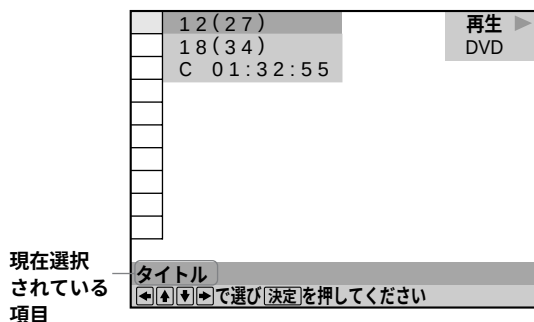
ディスクによって操作できる機能が異なります。コントロールメニューのそれぞれの項目について詳しくは、30～52ページをご覧ください。



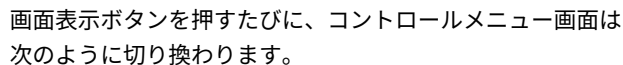
コントロールメニューでいろいろな機能を使う

1 画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が出ます。



➡️リターンボタンを押します。



```
graph TD; A[コントロールメニュー画面1] --> B[コントロールメニュー画面2  
(表示された項目のうち、上から4番目から下の項目が  
変わります。)]; B --> C[アドバンスト画面 (40ページ)]; C --> D[コントロールメニュー画面 切]; D --> A;
```

コントロールメニュー画面1

↓

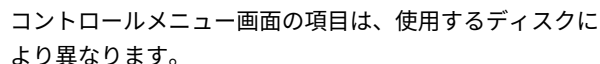
コントロールメニュー画面2
(表示された項目のうち、上から4番目から下の項目が
変わります。)

↓

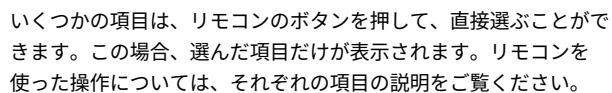
アドバンスト画面 (40ページ)

↓

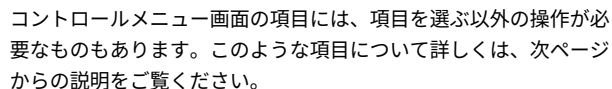
コントロールメニュー画面 切



💡 直接選べる項目もあります



ご注意



コントロールメニュー画面項目一覧

タイトル (DVDのみ) (30ページ) /

シーン (PBC再生時のビデオCDのみ) (30ページ) /

トラック (ビデオCDのみ) (30ページ)

チャプター (DVDのみ) (30ページ) /

インデックス (ビデオCDのみ) (30ページ)

トラック (CDのみ) (30ページ)

インデックス (CDのみ) (30ページ)

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

時間 / メモ (31, 32, 33ページ)

時間 / テキスト (31, 32, 33ページ)

再生中のタイトル、チャプター、トラックおよびディスク全体の経過時間および残り時間を調べることができます。タイムコードを入力して映像や曲を探すことができます。ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。ビデオCDやDVDテキスト、CDテキストが記録されていないディスクには、ディスクメモを記録することができます。

音声 (34ページ)

DVDの中には、複数の言語 (マルチランゲージ) で音声記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、音声複数の記録方式 (PCMまたはドルビーデジタル、DTS) で記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。複数の音声トラックで記録されたCDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーからその選んだ音を聞くことができます。

字幕 (DVDのみ) (36ページ)

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は、再生中の好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。

アングル (DVDのみ) (36ページ)

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの (マルチアングル) があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分であれば好きなアングルに切り換えながら見るすることができます。

VIRTUAL 3D SURROUND (37ページ)

ドルビーデジタルサラウンドなどのマルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。

フロントスピーカーしかつないでいないときでも、バーチャルエンハンスサラウンド (VES) 機能やVIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。

フロントスピーカーとリアスピーカーを2つずつつないでいるときには、VIRTUAL 3D SURROUND機能により、実際のリアスピーカーの位置とは違った位置にあるような効果を出したり (VIRTUAL REAR SHIFT)、仮想スピーカーを増やしたり (VIRTUAL MULTI REAR) することができます。

アドバンスト (DVDのみ) (40ページ)

ビットレートや再生中のディスクが読んでいる位置 (レイヤー) についての情報を見ることができます。

カスタム視聴制限 (41ページ)

暗証番号を登録することにより、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。

視聴年齢制限 (58ページ) とカスタム視聴制限は同じ暗証番号を使います。

設定 (53ページ)

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また DVD を再生するときの、字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目の詳しい内容は53~64ページをご覧ください。

プログラム (43ページ)

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。

シャッフル (45ページ)

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム (無作為) に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。

リピート (46ページ)

ディスク全体 (全タイトル / 全トラック) または1つのタイトル / チャプター / トラックだけを繰り返し再生できます。

A-Bリピート (47ページ)

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。

コントロールメニュー画面項目一覧

画質調整 (DVD/ビデオCDのみ) (48ページ)

部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、手動で画質をより細かく調整することもできます。

デジタルビデオエンハンサー (DVD/ビデオCDのみ) (49ページ)

画像の輪郭を際立たせて、より鮮明な映像にすることができます。

ビューアー (DVD/ビデオCDのみ) (50ページ)

画面を9分割して見ることができます。また、シーンやブックマークを簡単に探すこともできます。

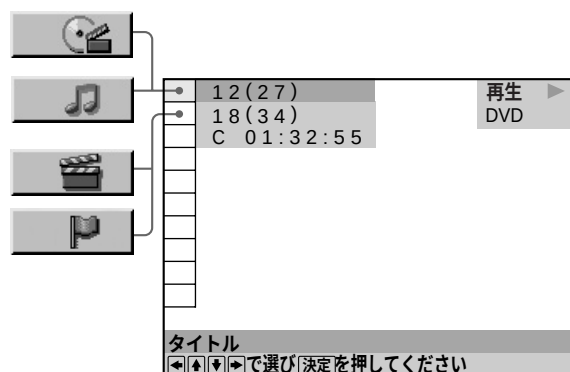
再生するタイトル/チャプター/トラック/インデックス/シーンを選ぶ

タイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選びます。

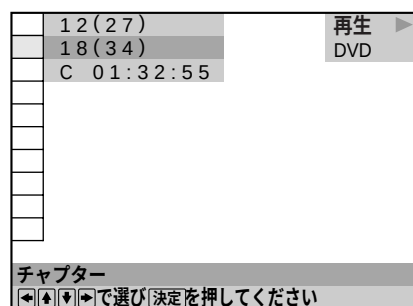
DVDを再生しているときは、「タイトル」と「チャプター」が表示されます。

ビデオCD/CDを再生しているときは、「トラック」と「インデックス」が表示されます。ビデオCDでPBC再生をしているときは、「シーン」が表示されます。



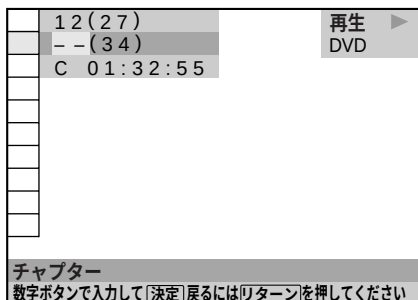
1 ↑/↓で「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選ぶ。

「** (**)」が選ばれます (**は任意の数字)。カッコ内の数字はタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの総数です。



2 →または決定ボタンを押す。

「** (**)」が「— (**)」に変わります。



3 数字ボタンでタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの数字を選んで、決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

選択を途中でやめるには

⏮️リターンボタンを押します。

ご注意

- 表示されるタイトル、チャプター、トラックの数字はディスクに記録されているタイトル、チャプター、トラックの数字です。
- ビデオCDのPBC再生中はインデックスの数字は表示されません。

経過時間と残り時間を見る



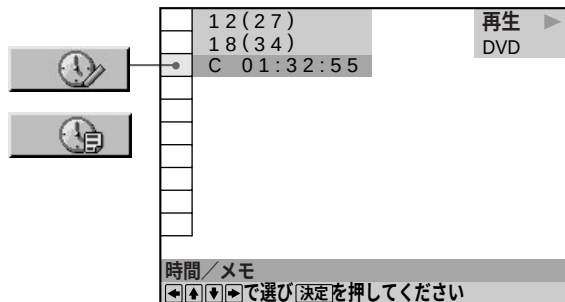
DVD

VIDEO CD

CD

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。

画面表示ボタンを押します。そのあと、リモコンの時間／テキストボタンを押して、時間表示を切り換えます。DVDテキストやCDテキストを見することもできます(33ページ)。



DVDを再生中

■ 時間/メモまたは時間/テキスト

- C **:*:*:*:再生中のチャプターの経過時間
- C—**:*:*:*:再生中のチャプターの残り時間
- T **:*:*:*:再生中のタイトルの経過時間
- T—**:*:*:*:再生中のタイトルの残り時間

ビデオCDをPBC再生中

■ 時間/メモ

- **:*:*:再生中のシーンの経過時間

ビデオCD (PBC再生中を除く) またはCDを再生中

■ 時間/メモまたは時間/テキスト

- T **:*:*:再生中のトラックの経過時間
- T—**:*:*:再生中のトラックの残り時間
- D **:*:*:再生中のディスクの経過時間
- D—**:*:*:再生中のディスクの残り時間



「時間/メモ」または「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。ボタンを押すたびに時間表示が変わります。

タイムコードを使って場面を探す



DVD

タイムコードを入力して場面を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「時間/メモ」または「時間/テキスト」を選びます。

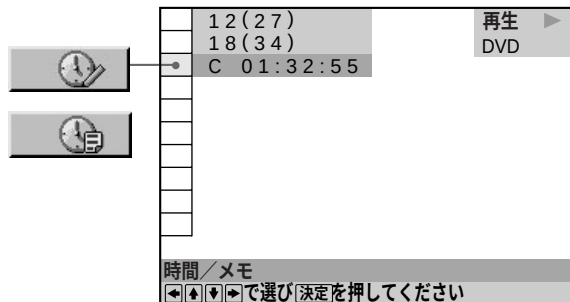
タイムコードはおよそ実際の経過時間に対応しています。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには
2:10:20と入力します。

入力を途中でやめるには

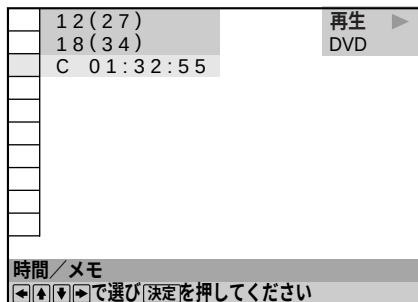
リターンボタンを押します。

ご注意

タイムコードを入力するときは、タイトルの経過時間を入力してください。

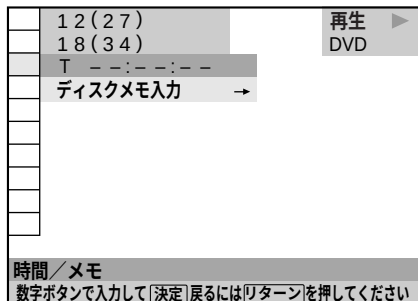


- 1 DVDを再生中に「C **:*:*」(再生中のチャプターの経過時間)を選ぶ。



- 2 → または決定ボタンを押す。

タイムコードが「T --:--:--」に変わる。



- 3 数字ボタンを使ってタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。

入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前に
クリアボタンを押してください。

ディスクに名前をつける

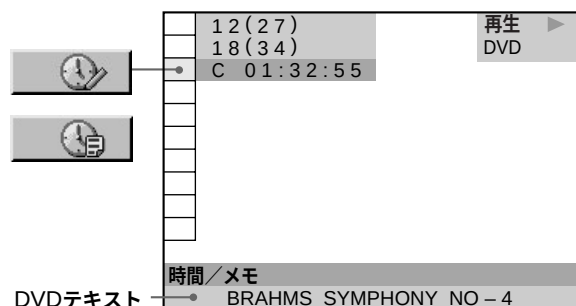


ビデオCDやDVDテキスト、CDテキストが記録されていないディスクには、ディスクに名前をつけることができます。また、ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。

画面表示ボタンを押します。「時間／メモ」が表示されます。ディスクメモが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。ディスクに名前がつけられていないときは、「NO TEXT」と表示されます。以下の手順にしたがってディスクに名前をつけてください。

DVDテキストまたはCDテキストが記録されたディスクのときは、「時間／テキスト」が表示されます。DVDテキストやCDテキストが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。テキストは書き換えることはできません。

情報はテレビ画面の一番下に表示されます。



「時間／メモ」または「時間／テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。DVDまたはCDテキストやディスクメモの情報を表示するには、情報が表示されるまで繰り返し時間／テキストボタンを押します。

「DVDまたはCDテキストやディスクメモの全情報を見られます」

表示窓に、DVDまたはCDテキストやディスクメモがスクロールして表示されます。

ご注意

本機では、DVDまたはCDテキストの先頭の情報（タイトルなど）のみを表示します。

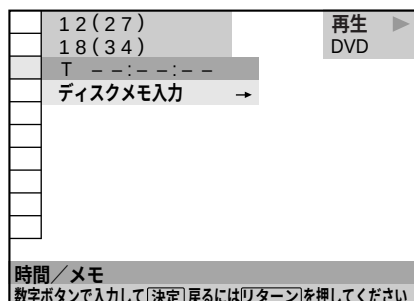
ディスクに名前をつける（ディスクメモ）

テキストが記録されていないディスクであれば、ディスクに名前をつけることができます。ディスクメモはそれぞれのディスクに20文字まで入力できます。

記録したディスクメモはディスクを取り出しても記録されています。ディスクメモは、タイトルや、ミュージシャンの名前、カテゴリー、購入日時など好きなものを記録できます。

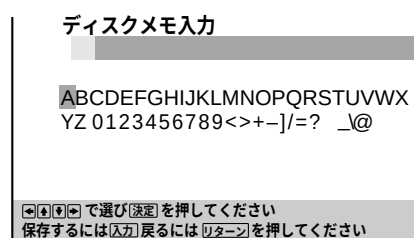
1 「時間／メモ」を選び、決定ボタンを押す。

「ディスクメモ入力 →」が表示されます。



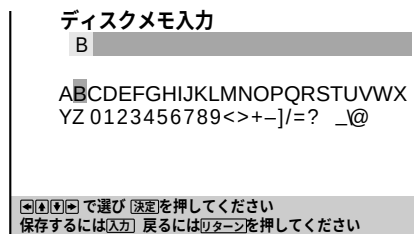
2 「ディスクメモ入力 →」を選び、決定ボタンを押す。

ディスクメモ入力画面が表示されます。



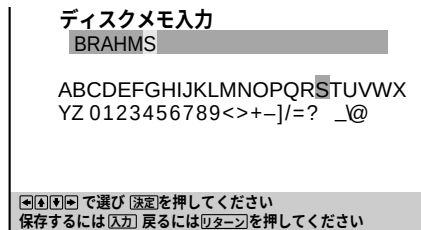
3 ←/↑/↓/→を押すか、クリックシャトルを回して文字を選ぶ。

選んだ文字の色が変わります。



ディスクに名前をつける

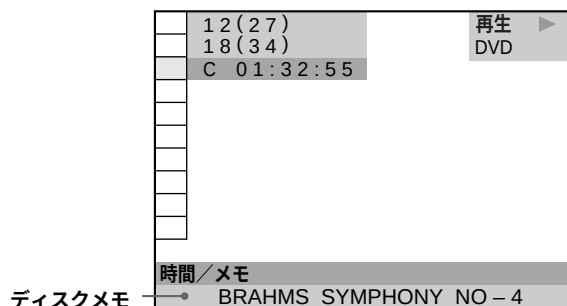
4 決定ボタンを押す。



5 手順3と4を繰り返して文字を入力する。

6 すべての文字を入力したら、リモコンの入力ボタンを押す。

ディスクメモが記録されます。



文字を修正するには

- 文字を消すには
 - ◀◀/▶▶を押して、消したい文字にカーソルをあわせる。
 - クリアボタンを押す。
- 文字を挿入したり上書きするには
 - ◀◀/▶▶を押して、修正したい文字にカーソルをあわせる。
 - ←/↑/↓/→を押すか、クリックシャトルを回して文字を選ぶ。
 - 文字を挿入するには、決定ボタンを押す。
文字を上書きするには、決定ボタンを押さずに、◀◀/▶▶を押してカーソルを動かす。

💡 リモコンを使ってディスクメモ入力画面を表示できます
リモコンの入力ボタンを押します。

ご注意

- 本体の①スイッチを押して電源を切ると、設定が解除される場合があります。電源を切るときは、■を押して再生を止めてからリモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯し、スタンバイモード（待機状態）になったら、本体の①スイッチを押してください。
- ディスク200枚までディスクメモを記録することができます。200枚を超えると、古いディスクから上書きされます。

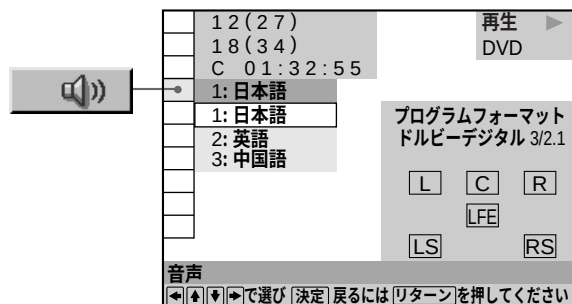
音声を切り換える



DVDに、複数の言語（マルチランゲージ）で音声記録されているときは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、複数の音声記録方式（PCMまたはドルビーデジタル、DTS）が記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。

複数の音声トラックが記録されたCDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーから選んだ音を聞くことができます。このときの音声はモノラルになります。例えばカラオケのビデオCDなどでは、音声チャンネルを切り換えることで、ボーカルのトラックを消し、伴奏だけを楽しめるものもあります。

画面表示ボタンを押したあと、「音声」を選びます。



■ 音声

DVDを再生中

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは、言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」（73ページ）を参照して選んでください。同じ言語が2個以上あるときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。現在選ばれている音声記録方式は、「プログラムフォーマット」に表示されます。

ビデオCDまたはCDを再生中

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

💡 「音声」を直接選べます

リモコンの音声ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が変わります。

ご注意

- DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り換えが禁止されている場合があります。
- CD/ビデオCDでは、次の場合に通常のステレオ再生に戻ります。
 - ディストレイを開閉したとき
 - リモコンの電源ボタンを押して本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
 - 本体の①スイッチを押して電源を切ったとき
- DVD再生中、次の場合に音声切り換わることがあります。
 - ディストレイを開閉したとき
 - タイトルを変えたとき

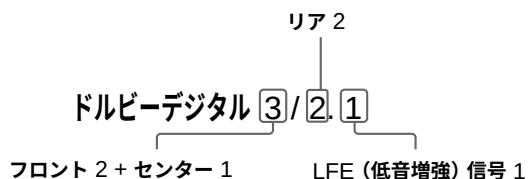
再生しているチャンネルを表示する DVD

「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。
例えば、ドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。



*「PCM」または「DTS」、「ドルビーデジタル」が表示されます。
「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが下記の
ように数字で表示されます。

ドルビーデジタル5.1chの場合：

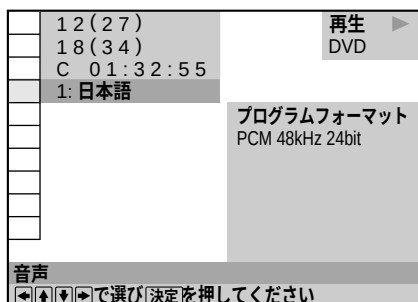


**各記号は次のチャンネルを表しています。

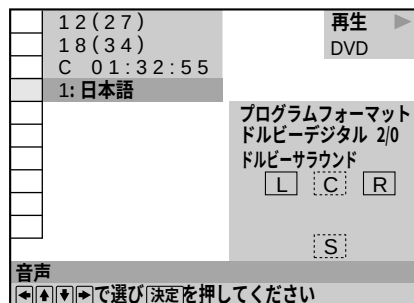
- L： フロント (左)
- R： フロント (右)
- C： センター (モノラル)
- LS： リア (左)
- RS： リア (右)
- S： リア (モノラル)：ドルビーサラウンド処理された2ch
信号または、ドルビーデジタル信号のリア成分です。
- LFE： LFE (Low Frequency Effect: 低音増強) 信号

画面表示の例

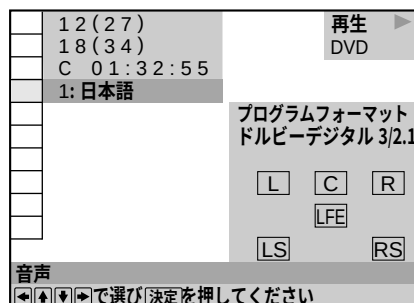
- PCM (ステレオ) のとき



- ドルビーサラウンドのとき



- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき
LFE信号が出力されているときは「LFE」が実線で表示されます。LFE信号が出力されていないときは、「LFE」は破線で表示されます。



- DTSのとき

LFE (低音増強) 信号が出力されているときは「LFE」が
実線で表示されます。LFE信号が出力されていないとき
は、「LFE」は破線で表示されます。



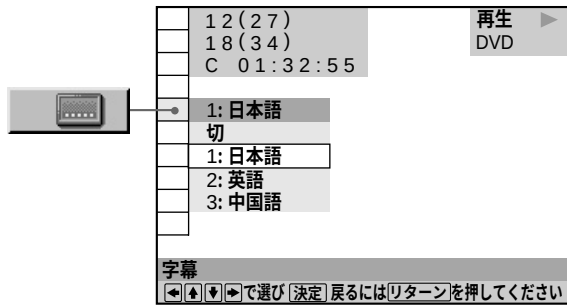
ご注意

LS、RS、Sのようなリア信号を含んでいるときは、バーチャル3D
サラウンドの効果がより強調されます (39ページ)。

字幕を表示する DVD

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。字幕は再生中であれば、好きなときに表示したり消したりできます。また、DVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。例えば、字幕を表示して、語学の学習に役立てたりすることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「字幕」を選びます。



■ 字幕

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(73ページ)を参照して選んでください。

🔍 「字幕」を直接選べます

リモコンの字幕ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- 字幕が記録されていないディスクでは、字幕を表示することはできません。
- DVDによっては字幕が記録されていても、字幕表示を禁止している場合があります。
- DVDによっては、字幕を消すことを禁止している場合があります。
- 記録されている字幕の言語の種類や数はDVDによって異なります。
- DVDによっては複数の字幕が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- DVD再生中、次の場合に字幕が切り換わることがあります。
 - ディスクトレイを開閉したとき
 - タイトルを変えたとき

アングルを切り換える DVD

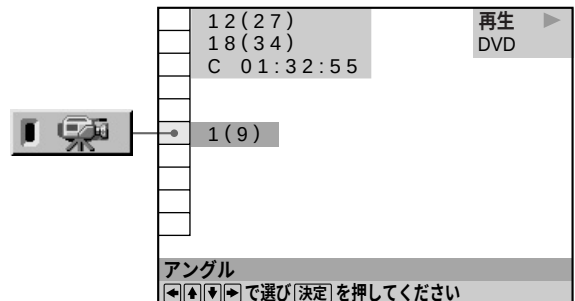
DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの(マルチアングル)があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分で好きなアングルに切り換えながら見ることができます。

例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、左の窓や右の窓からの景色に、電車の動きを止めることなく切り換えて見るすることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「アングル」を選びます。アングルを変えられるときはアングル表示が緑に点灯します。

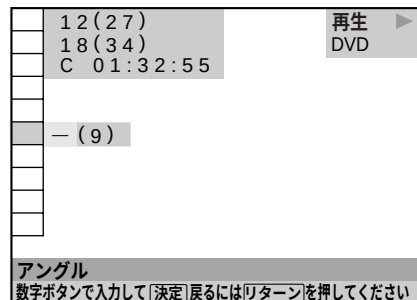


1 「アングル」を選ぶ。

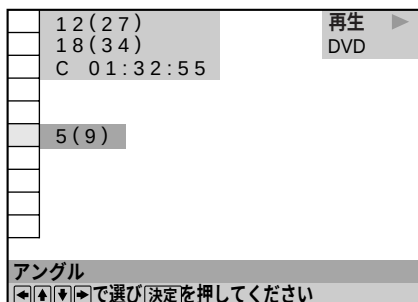


2 →を押す。

アングル番号が「-」に変わります。カッコ内の数字はアングルの総数を示します。



- 3 数字ボタンまたは↑/↓を使ってアングル番号を選び、決定ボタンを押す。
選んだアングルに切り換わります。



💡「アングル」を直接選べます

リモコンのアングルボタンを押します。ボタンを押すたびにアングルが切り換わります。

💡複数のアングルを同時に表示できます（アングルビューアー）

DVDに記録されているすべてのアングルを同時に表示できます。同時に表示したアングルからひとつのアングルを選んで、選んだアングルで再生を始めることができます。

アングルはテレビ画面に9分割されて表示されます。

詳しくは、51ページをご覧ください。

ご注意

- 切り換えられるアングルの数は、DVDによっても、場面によっても異なります。DVDのその場面に記録されているアングルの数だけ切り換えることができます。
- DVDによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

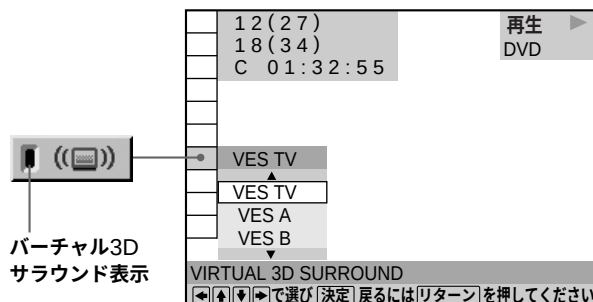
デジタルシネマサウンドの設定をする

DVD VIDEO CD

2台または4台のスピーカーのみつないでいるときでも、ドルビーデジタルまたはDTSで、マルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。つないでいるスピーカーにあわせて項目を選んでください。

また、ヘッドホンを通してバーチャル3Dサラウンド効果を楽しむこともできます。

画面表示ボタンを押したあと、「VIRTUAL 3D SURROUND」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは、バーチャル3Dサラウンド表示が緑に点灯します。



■ VIRTUAL 3D SURROUND

希望の項目を選びます。それぞれの項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

・切

2台のスピーカーをつないでいるとき

- ・ VES TV
- ・ VES A
- ・ VES B
- ・ VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

4台以上のスピーカーをつないでいるとき

- ・ NORMAL SURROUND
- ・ ENHANCED SURROUND
- ・ VIRTUAL REAR SHIFT
- ・ VIRTUAL MULTI REAR
- ・ VIRTUAL MULTI DIMENSION

ヘッドホンをつないでいるとき

- ・ VIRTUAL SURROUND HEADPHONES

ご注意

- ・ 2台のフロントスピーカーのみをつないでいるときは、「VES TV」、「VES A」、「VES B」または「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」のみ選べます。2台以上のスピーカーをつないでいるときは、上記以外の設定にすることをおすすめします。
- ・ ドルビーデジタルサラウンドを十分に楽しむために、つないだスピーカーの位置や距離などを設定してください。スピーカーの設定について詳しくは、63ページをご覧ください。

2台のスピーカーを設定する

2台のフロントスピーカーのみをつないでいるとき、バーチャル エンハンスド サラウンド (VES) 機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、リアスピーカーがなくても仮想サラウンドが楽しめます。

「VES TV」、「VES A」、「VES B」または「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」の項目から選びます。

ドルビーデジタル信号がDIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子から出力されるときは、設定画面の「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に、「DTS」を「ダウンミックスPCM」にしている場合のみサラウンド効果を得ることができます。

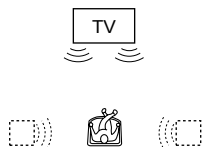
切

ディスクに記録されているすべてのチャンネルの信号を出力します。例えば、CDのステレオ音声は2チャンネルの信号で出力します。

DVDのマルチチャンネル（ドルビーデジタルやDTS）の場合、スピーカーが接続されていないチャンネルの信号は他の接続されているスピーカーに振り分けて出力します。

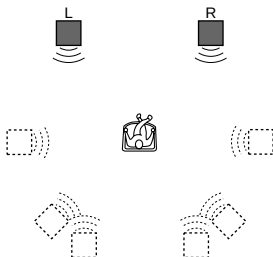
バーチャル エンハンスド サラウンド VES (Virtual Enhanced Surround) TV

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、1組の仮想リアスピーカーを再現します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。



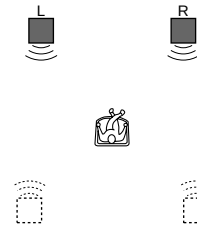
バーチャル エンハンスド サラウンド VES (Virtual Enhanced Surround) A

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、3組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



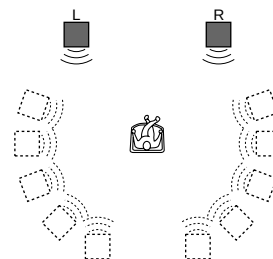
バーチャル エンハンスド サラウンド VES (Virtual Enhanced Surround) B

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、1組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



バーチャル セミ マルチ ディメンション VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

3D立体音像処理により、フロントスピーカー（L、R）のみで仮想リアスピーカーを再現します。5組の仮想スピーカーは、リスニングポジションから約30°の高さで下の図のように再現します。



L：フロントスピーカー（L）
R：フロントスピーカー（R）
□：仮想スピーカー

4台以上のスピーカーを設定する

フロントスピーカーとリアスピーカーを2台ずつつないでいるときには、ドルビーサラウンド（プロロジック）やバーチャル 3D サラウンドの機能により、実際のリアスピーカーの位置とは違った位置にあるような効果を出したり、仮想スピーカーを増やし、複数のスピーカーに包まれたような効果を出したりすることができます。

「NORMAL SURROUND」、「ENHANCED SURROUND」、「VIRTUAL REAR SHIFT」、「VIRTUAL MULTI REAR」または「VIRTUAL MULTI DIMENSION」の項目から選びます。

切

ディスクに記録されているすべてのチャンネルの信号を出力します。例えば、CDのステレオ音声は2チャンネルの信号で出力します。

DVDのマルチチャンネル（ドルビーデジタルやDTS）の場合、スピーカーが接続されていないチャンネルの信号は他の接続されているスピーカーに振り分けて出力します。

NORMAL SURROUND

2チャンネルのサラウンド音声信号のソフトでは、サラウンド効果を再現するためにドルビープロロジック処理されます。リアスピーカーは同一のモノラル音声を出力し、センタースピーカーを使っているときは、センタースピーカーに合うようにドルビープロロジック処理された音声が入力されます。



ENHANCED SURROUND

プロロジック処理されたモノラル音声をステレオ感のあるリア音声にすることで、臨場感が増します。

VIRTUAL REAR SHIFT

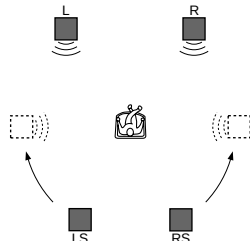
3D立体画像処理により、リアスピーカーの実際の位置から離れた、仮想リアスピーカーから音が出ているような臨場感を再現します。

仮想スピーカーの位置は下図のようになります。仮想スピーカーの位置はリアスピーカーの設定により異なります (63ページ)。

設定が「サイド」のとき



設定が「リア」のとき

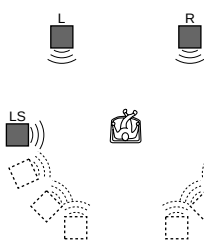


VIRTUAL MULTI REAR

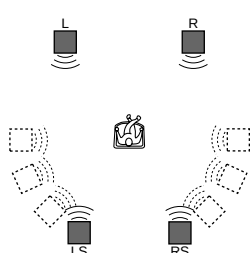
3D立体画像処理により、1組の実在するリアスピーカーを使用し、3組の仮想リアスピーカーから音が出ているような臨場感を再現します。

仮想スピーカーの位置は下図のようになります。仮想スピーカーの位置はリアスピーカーの設定により異なります (63ページ)。

設定が「サイド」のとき



設定が「リア」のとき



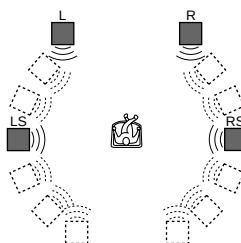
VIRTUAL MULTI DIMENSION

3D立体画像処理により、1組の実在するリアスピーカーを使用し、5組の仮想スピーカーから音が出ているような臨場感を再現します。

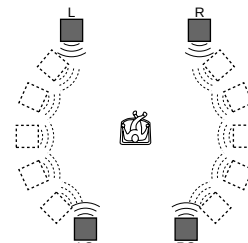
5組の仮想スピーカーの位置は、リスニングポジションから約30°の高さで下図のようになります。

仮想スピーカーの位置はリアスピーカーの設定により異なります (63ページ)。

設定が「サイド」のとき



設定が「リア」のとき



- L: フロントスピーカー (L)
- R: フロントスピーカー (R)
- LS: リアスピーカー (L)
- RS: リアスピーカー (R)
- : 仮想スピーカー

● 本体のボタンを使って「VIRTUAL 3D SURROUND」の項目を選べます。

本体のVIRTUAL 3D SURROUNDボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り替わります。

ご注意

- ・項目を選んだときは一瞬音が途切れます。
- ・ディスクによってはリア音声が記録されていないものもあります。この場合、3Dサラウンドの効果はわかりにくくなります。
- ・センタースピーカーとサブウーファーをつないでいるときは、センタースピーカーとサブウーファーからも音が出ます。「VES TV」、「VES A」、「VES B」または「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでいるときは、センタースピーカーから音は出ません。
- ・「VIRTUAL 3D SURROUND」の項目を選んでいるときは、つないでいる機器 (アンプなど) のサラウンドの設定は「切」にしてください。
- ・「VIRTUAL 3D SURROUND」の項目を選んでいるときは、サンプリング周波数は48kHzに変換されて出力されます。
- ・DIGITAL OUT (OPTICAL、COAXIAL) から音声を出力しているときは、CD再生中はサラウンドの効果は得られません。
- ・両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていないときは、「VES A」、「VES B」または「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでも効果がわかりにくいことがあります。
- ・4台のスピーカーをつないでいるときは、DIGITAL OUT (OPTICAL、COAXIAL) からはサラウンドの効果は得られません。

ヘッドホンをつないで聞く

ヘッドホンを通してバーチャル3Dサラウンド効果を楽しむには、「VIRTUAL SURROUND HEADPHONES」を選びます。

バーチャル サラウンド ヘッドホン

VIRTUAL SURROUND HEADPHONES

3D立体音像処理により、音響効果の高い劇場にいるような臨場感を再現します。PHONES（ヘッドホン）端子の右にあるPHONE LEVEL（ヘッドホン音量）つまみで、音量を調整してください。

アンプなどにつないでいるときは、アンプのヘッドホンを通してサラウンドの効果を得ることができます。

🔊 「VIRTUAL SURROUND HEADPHONES」を直接選べます

本体のVIRTUAL SURROUND HEADPHONESボタンを押します。もう1度ボタンを押すと、解除されます。

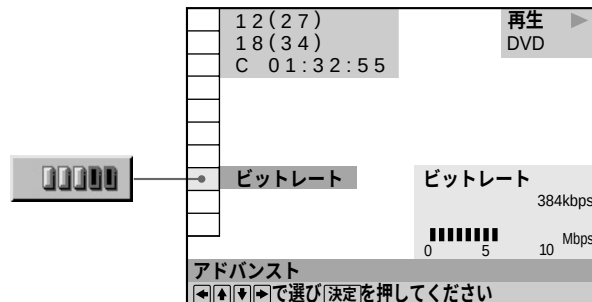
ご注意

- 本体のVIRTUAL SURROUND HEADPHONESボタンを押すと、VIRTUAL 3D SURROUNDの項目は解除されます。
また、本体のVIRTUAL 3D SURROUNDボタンを押すと、VIRTUAL SURROUND HEADPHONESの項目は解除されます。
- DIGITAL OUT（OPTICAL、COAXIAL）から音声を出力してアンプ側でヘッドホンを使用するときは、設定画面の「オーディオ設定」で、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に、「DTS」を「ダウンミックスPCM」にしているときのみ、サラウンドの効果を得られます。

再生の情報を見る

ビットレートまたは、ディスクのレイヤーおよび光ピックアップの位置についての情報を見ることができます。
再生中、映像のおよそのビットレートがMbps（Mega bit per second）で、音声のおよそのビットレートがkbps（kilo bit per second）で表示されます。

画面表示ボタンを押したあと、「アドバンスト」を選びます。



■ アドバンスト

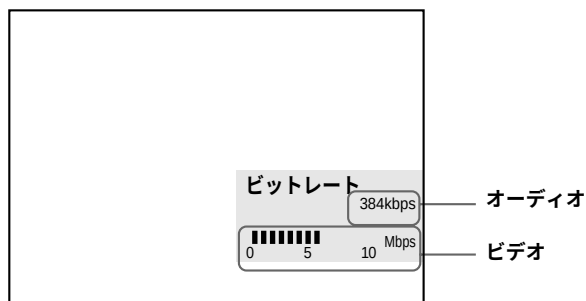
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ビットレート：ビットレートを表示する。
- レイヤー：レイヤーおよび光ピックアップのおよその位置を表示する。
- 消：アドバンスト画面を消す。

各項目の表示

画面表示ボタンを繰り返し押すと、アドバンスドで選んだ「ビットレート」または「レイヤー」が表示されます。

ビットレート



ビットレートはDVDに圧縮して記録されている画像や音声の、1秒あたりの情報量を示す値です。画像の場合、単位はMbps (Mega bit per second) で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。音声の場合、単位はkbps (kilo bit per second) です。この値が大きいくほど画像や音声の情報量は多くなりますが、必ずしも画質や音質とは直接関係しません。

レイヤー



再生中、光ピックアップのおよその位置を示します。2層のDVDではどちらのレイヤーが読まれているかも示します（「Layer 0」または「Layer 1」）。レイヤーについて詳しくは、72ページのDVDの項目をご覧ください。

ディスクを制限する (カスタム視聴制限)

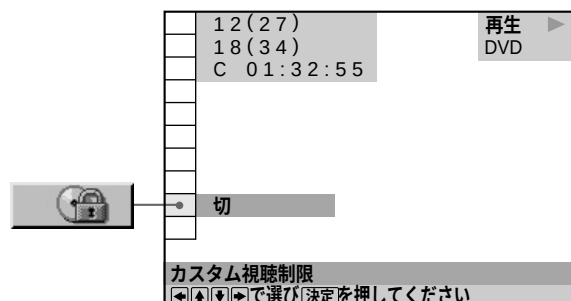


登録した暗証番号を使って、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。

登録した同じ暗証番号で、200枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。201枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

視聴年齢制限 (58ページ) でも、カスタム視聴制限と同じ暗証番号を使います。

画面表示ボタンを押して、「カスタム視聴制限」を選びます。



ディスクにカスタム視聴制限を設定する

1 設定したいディスクを入れる。

ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2 ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。



ディスクを制限する(カスタム視聴制限)

- 3 ↑/↓で「入」を選んで、決定ボタンを押す。

- 暗証番号が登録されていないとき
暗証番号入力画面が表示されます。

カスタム視聴制限

新しい暗証番号を登録してください
4桁の数字を入力して [決定] を押してください

戻るには [リターン] を押してください

- 暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号確認画面が出ます。手順4をとばして
手順5に進みます。

カスタム視聴制限

暗証番号を入力して [決定] を押してください

戻るには [リターン] を押してください

- 4 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
決定ボタンを押すと数字は「*」に変わり、暗証番号確認
の画面になります。

カスタム視聴制限

確認のため 登録した4桁の数字を再入力して
[決定] を押してください

戻るには [リターン] を押してください

- 5 暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コント
ロールメニューの画面に戻ります。

通常の画面に戻るときは

リターンボタンを押します。

カスタム視聴年齢制限を解除するとき

- ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
- ↑/↓で「切」を選んで、決定ボタンを押す。
- 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更したいときは

- ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
- ↑/↓で「暗証番号変更」を選んで、決定ボタンを押す。
- 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号変更画面が表示されます。
- 新しい4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
- 確認のため、暗証番号を数字ボタンでもう1度入力し、
決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限が設定されているディスクを再生する

- 1 ディスクを入れる。
カスタム視聴制限画面が表示されます。

カスタム視聴制限

カスタム視聴制限が設定されています 再生するには
暗証番号を入力して [決定] を押してください

- 2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。

💡 暗証番号を忘れてしまったときは

カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

カスタム視聴制限が設定されたディスクは、暗証番号を入力しないと再生することはできません。暗証番号がわからない場合は、合ボタンを押してディスクを取り出してください。

好きな順に再生する (プログラム再生) DVD VIDEO CD

タイトルやチャプター、トラックを好きな順に選んでプログラムを作り、再生できます。最大99個のタイトルやチャプター、トラックがプログラムできます。

画面表示ボタンを押したあと、「プログラム」を選びます。
「入」を選んでいるときはプログラム表示が緑に点灯します。



■ プログラム

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 切：ふつうの再生。
- 設定→：プログラムを設定する。
- 入：プログラム再生。

プログラムを設定する

1 「プログラム」の「設定→」を選ぶ。

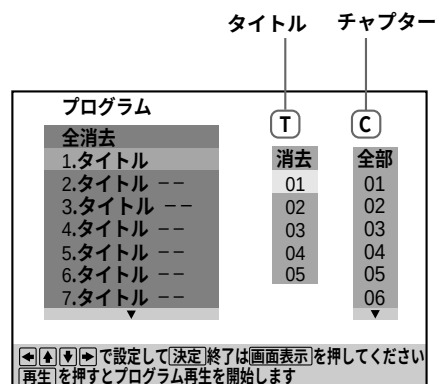
プログラム設定画面が表示されます。

CD/ビデオCDでは「トラック」と表示される



2 →を押す。

タイトルまたはトラック「01」が選ばれます。プログラムの最初のタイトルまたはトラックを設定します。

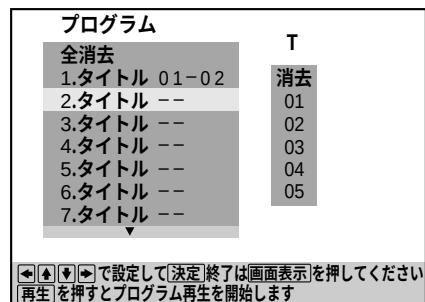
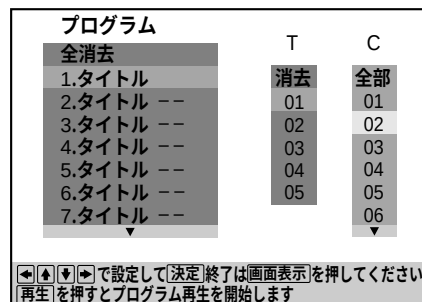


3 ↑/↓でプログラム再生したいタイトル/チャプター/トラックを選んで、決定ボタンを押す。

例えばタイトルまたはトラック「02」を選びます。(数字ボタンで選び、決定ボタンを押して選択することもできます。このとき選択した番号が画面に表示されます。)

■ DVDのとき

タイトルとチャプターの両方が記録されている場合は、タイトルを選んでから、チャプターを選択する。

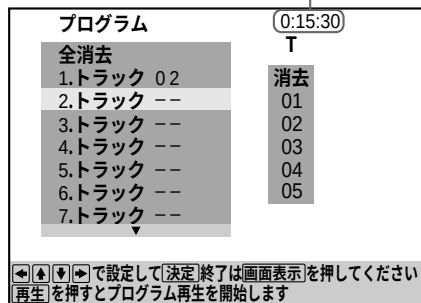


好きな順に再生する(プログラム再生)

■ CD/ビデオCDのとき

ディスクに記録されているトラックの中から再生するトラックを選ぶ。

プログラムしたトラックの総時間



4 他に再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順3を繰り返す。

設定したタイトル/チャプター/トラックが選んだ順に表示されます。

5 ▷を押す。

プログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

プログラムの設定をやめるときは

リモコンのプログラムボタンを押します。

プログラムの設定を変更するときは

- 手順2で、↑/↓を使って変更したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選ぶ。
- 手順3の操作で新しい設定を入力する。

設定したプログラムを消すには

すべて消すときは、手順2で「全消去」を選びます。ひとつずつ消すときは、手順2で↑/↓を使って消したいプログラムを選んでクリアボタンを押すか、手順3で「消去」を選んだあと、決定ボタンを押します。

💡 プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています
▷を押すと、同じプログラムをもう1度再生します。

💡 設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます

プログラムを再生中に、リモコンのくり返しボタンやシャッフルボタンを押してください。または、コントロールメニュー画面の「リピート」または「シャッフル」を「入」にしてください。

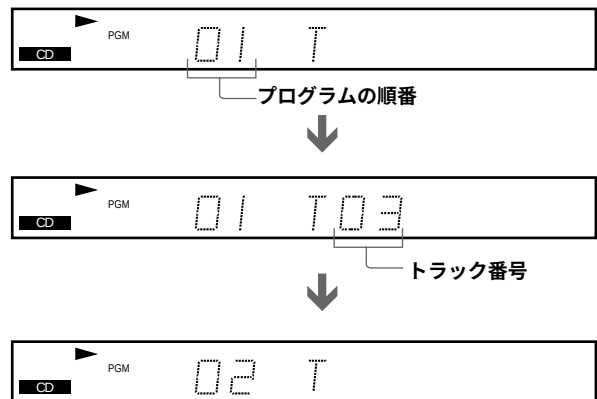
💡 「プログラム」を直接選べます。

リモコンのプログラムボタンを押します。

💡 本体の表示窓を見ながらプログラム設定したいタイトルまたはチャプター、トラックを選ぶことができます

テレビ画面のプログラム画面のかわりに、本体の表示窓を見ながらプログラム設定することもできます。

例えば、プログラム1にCDのトラック3を設定したときは、下記のように表示窓に表示されます。



ご注意

- タイトル/チャプター/トラックはディスクに記録されている数だけ画面に表示されます。
- 設定したプログラムは、次の場合に解除されます。
 - ディストレイを開閉したとき
 - リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード(待機状態)になったとき
 - 本体の①スイッチを押して電源を切ったとき
- DVDによってはプログラム再生ができない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからプログラムを設定してください。

45

繰り返し再生する (リピート再生) DVD VIDEO CD

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または1つのタイトル/チャプター/トラックを繰り返し再生できます。シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせると、シャッフル再生やプログラム再生での順番で繰り返し再生します。ビデオCDのPBC再生 (24ページ) では、リピート再生できません。

画面表示ボタンを押したあと、「リピート」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときはリピート表示が緑に点灯します。



■ リピート

リピート再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」と「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはCDで「プログラム」および「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのトラックを繰り返し再生します。
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

「プログラム」または「シャッフル」を「切」以外にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返し再生します。

リピート再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

🔦 停止中でもリピート再生の設定ができます

「リピート」で項目を選んで▶ボタンを押します。
リピート再生が始まります。

🔦 「リピート」を直接選べます

リモコンまたは本体のくり返しボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

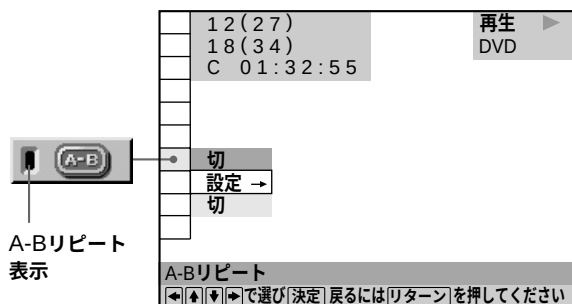
ご注意

- リピート再生は、以下の場合に解除されます。
 - ディスクトレイを開閉したとき
 - リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード (待機状態) になったとき
 - 本体の①スイッチを押して電源を切ったとき
- DVDによってはリピート再生ができない場合があります。

再生したい部分だけを繰り返す (A-Bリピート) DVD VIDEO CD CD

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。
ビデオCDのPBC再生 (24ページ) では、動画の再生中にのみできる操作です。

画面表示ボタンを押したあと、「A-Bリピート」を選びます。
A-Bリピート中はA-Bリピート表示が緑に点灯します。



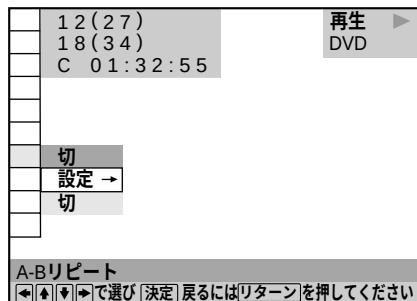
■ A-Bリピート

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 設定→：繰り返す部分の始点 (A点) と終点 (B点) を設定します。
- 切：A-Bリピート再生しません。

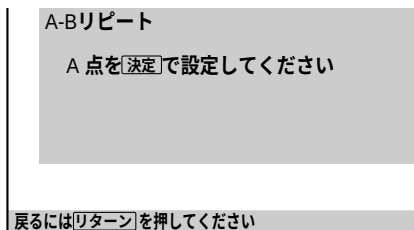
繰り返す部分を設定する

1 「A-Bリピート」を選び、決定ボタンを押す。



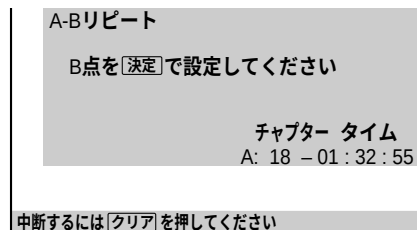
2 「A-Bリピート」の「設定→」を選び、決定ボタンを押す。

A-Bリピート設定画面が表示されます。



3 再生中に繰り返す部分の始点 (A点) で決定ボタンを押す。

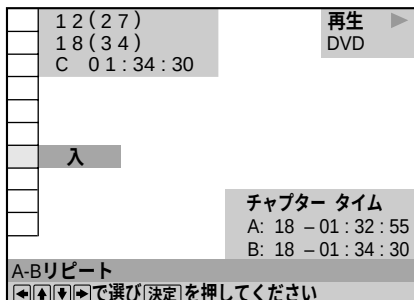
始点 (A点) が設定されます。



4 繰り返す部分の終点 (B点) でもう1度決定ボタンを押す。

指定した部分が表示され、指定した部分を繰り返し始めます。

A-Bリピート再生中は表示窓の「A-B」が点灯します。



再生したい部分だけを繰り返す (A-Bリピート)

A-Bリピートをやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

ご注意

- A-Bリピートが設定できるのは1か所のみです。
- 設定したA-Bリピートは、次の場合に解除されます。
 - ディスクトレイを開閉したとき
 - リモコンの電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき
 - 本体の①スイッチを押して電源を切ったとき
- A-Bリピートを設定すると、シャッフル再生やリピート再生、プログラム再生は解除されます。
- DVD、ビデオCDの場面によっては、A-Bリピートの設定ができないことがあります。

画質を調整する (画質調整)



部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、「メモリー→」を選ぶと、画質をより細かく調整することができます。

画面表示ボタンを押したあと、「画質調整」を選びます。「スタンダード」以外の項目を選んでいるときは、「画質調整」表示が緑に点灯します。



■ 画質調整

画質設定を選びます。

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- スタンダード：標準的な画質になる
- ダイナミック1：コントラストの強いメリハリのある画質になる
- ダイナミック2：ダイナミック1よりも、よりコントラストの強いメリハリのある画質になる
- シネマ1：黒色を強調して暗い部分の詳細を際立たせる
- シネマ2：白色をより明るく、黒色をより強調して、色あいのコントラストをつける
- メモリー→：明るさや色あいなどを項目ごとに調整する

🔦 映画を見るときは

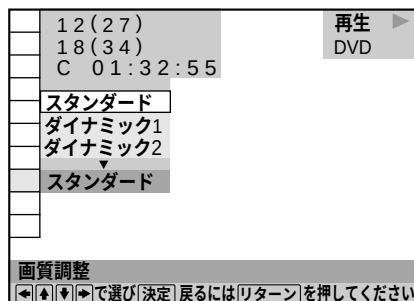
「シネマ1」または「シネマ2」を選ぶことをおすすめします。

画質を項目ごとに調整する

次の項目を個々に調整できます。

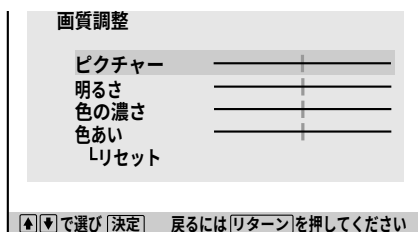
- ピクチャー：コントラストを調整する。
- 明るさ：全体の明るさを調整する。
- 色の濃さ：色をより濃く、またはより明るく調整する。
- 色あい：色のバランスを調整する。

1 「画質調整」を選んで、決定ボタンを押す。



2 「メモリー→」を選んで、決定ボタンを押す。

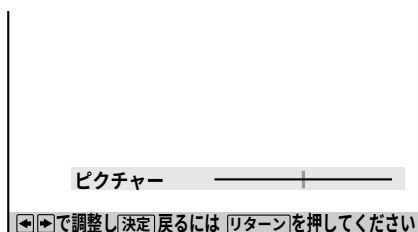
画質調整画面が表示されます。



3 調整したい項目を↑/↓で選んで、決定ボタンを押す。

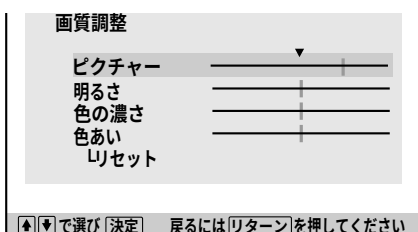
選んだ項目が表示されます。

調整を途中でやめたいときは決定ボタンを押す前に、 リターンボタンを押します。



4 ←/→で選んだ項目を調整し、決定ボタンを押す。

設定値が記録されます。



5 他の項目を調整するときは、手順3から4を繰り返す。

画質調整画面からコントロールメニュー画面に戻るには

リターンボタンを押します。

調整した項目をお買い上げ時の状態に戻すには「メモリー→」の「リセット」を選びます。

ご注意

「メモリー→」に記録できる設定は1つだけです。項目を調整すると前の設定は消えます。

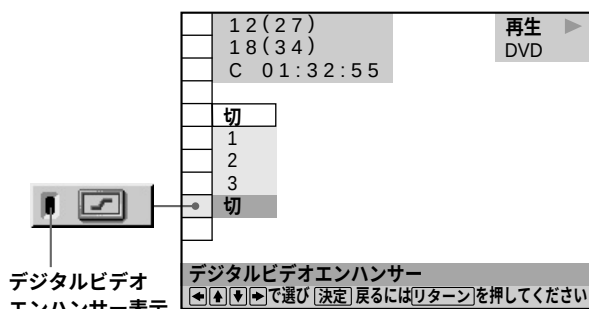
映像の輪郭をはっきりさせる (デジタルビデオエンハンサー)



画像の輪郭を強調して、画像をより鮮明にはっきり見せます。

画面表示ボタンを押したあと、「デジタルビデオエンハンサー」を選びます。

「切」以外の項目を選んでいるときは、「デジタルビデオエンハンサー」表示が緑に点灯します。



■ デジタルビデオエンハンサー

設定するレベルを選びます。数値が大きくなると、画像の輪郭がよりはっきりします。

お使いのテレビ画面の画像にあった設定を選んでください。お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ・ **切**：デジタルビデオエンハンサー機能を解除します。
- ・ **1**：輪郭を強調します。
- ・ **2**：「1」よりも輪郭を強調します。
- ・ **3**：「2」よりも輪郭を強調します。

「デジタルビデオエンハンサー」を直接選べます

本体またはリモコンのDVEボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

DVDディスクやビデオCDの再生している場面によっては、ディスク上のノイズがより目立つことがあります。この場合は、デジタルビデオエンハンサーのレベルを下げてください。

見たい場面を簡単に探す（ビューアー）

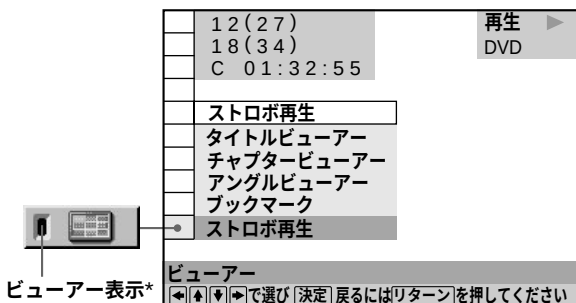
DVD

VIDEO CD

画面を9分割して表示させ、下記の機能を使って見たい場面を簡単に探すことができます。

- ストロボ再生
- タイトルビューアー（DVDのみ）
- チャプタービューアー（DVDのみ）
- トラックビューアー（ビデオCDのみ）
- アングルビューアー（DVDのみ）
- ブックマーク

画面表示ボタンを押したあと、「ビューアー」を選びます。



* ブックマークを登録したディスクを再生しているときは「ビューアー」表示が緑に点灯します。

連続した9つの場面を表示させる（ストロボ再生）

DVD

VIDEO CD

画面上に連続した9つの場面を表示させることができます。それぞれの画面は静止画になります。ディスクを再生中はクリックシャトルを回して画像のスピードを変えられます。一時停止ボタンを押すと、停止している部分付近の9つの画像が静止画で表示されます。

「ビューアー」から「ストロボ再生」を選び、決定ボタンを押します。画面に9つの連続した画面が表示されます。

ストロボ再生をやめるには

⌂ リターンボタンを押します。

ご注意

- ディスクによってはストロボ再生できない場面がある場合があります。
- ストロボ再生中は音声は出ません。

タイトルやチャプターを一覧表で見る

DVD

VIDEO CD

画面を9分割してディスクのタイトル、チャプター、トラックの最初の画像を見ることができます。選んだタイトル、チャプター、トラックから再生することもできます。

DVDを再生中は、「ビューアー」から「タイトルビューアー」または「チャプタービューアー」を選び、決定ボタンを押します。

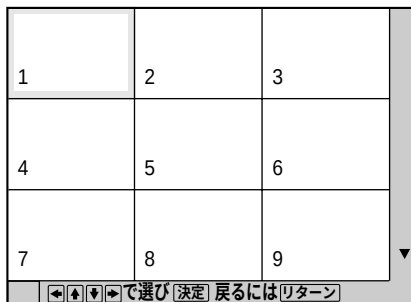
ビデオCDを再生中は、「ビューアー」から「トラックビューアー」を選び、決定ボタンを押します。

選んだ場面から再生を始めるには

←/↑/↓/→で場面を選び、決定ボタンを押します。選んだ場面から再生が始まります。

9つ以上のタイトルやチャプターがあるときは

画面の右下に▼が表示されます。一番右下（9の位置）の場面を選択し、↓で次のタイトルやチャプターを表示させます。前の画面に戻るには、一番左上（1の位置）の場面を選択し、↑を押します。



表示窓でタイトルの番号を見られます

選んでいるタイトル、チャプター、トラックの番号が表示窓に表示されます。

複数の場面を一覧表示するのをやめるには

⌂ リターンボタンを押します。

ご注意

- ディスクによってはタイトル、チャプター、トラックを一覧で見られない場合があります。
- 一覧表示中は音声は出ません。

複数のアングルを同時に見る **DVD**

同じ場面が複数のアングルで記録されているDVDを再生するとき、記録されているすべてのアングルをまとめて見ることができます。そこからアングルを選んで再生することもできます。アングルは画面が9分割されて表示されます。

「ビューアー」から「アングルビューアー」を選び、決定ボタンを押します。見ることのできるアングルが表示されます。

1つのアングルを選ぶときは

←/↑/↓/→でアングルを選び、決定ボタンを押します。選んだアングルの画像だけが表示されます。

複数のアングルを同時に表示するのをやめるには

⌂ リターンボタンを押します。

💡 表示窓でアングルの番号を見られます

選んでいるアングルの番号が表示窓に表示されます。

ご注意

- ディスクにアングルが1つしか記録されていないときは、この機能は使えません。
- DVDによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- 複数のアングルを同時に表示しているときに、複数のアングルが記録されていない場面になると普通の再生に戻ります。
- アングル表示中は音声は出ません。

お気に入りの場面を登録する／選ぶ (ブックマーク) **DVD** **VIDEO CD**

ディスク上の指定した位置をメモリーに登録しておく(ブックマーク)、ブックマークとして登録した場面を一覧で見えて、登録した位置からすぐに再生することができます。1枚のディスクにつき9つまで、200枚までのディスクの位置を登録することができます。

「ビューアー」から「ブックマーク」を選び、決定ボタンを押します。登録されているブックマークが表示されます。

ブックマークとして登録した場面から再生を始めるには

←/↑/↓/→で場面を選び、決定ボタンを押します。選んだ場面から再生が始まります。

ブックマークとして登録した場面を表示するのをやめるには

⌂ リターンボタンを押します。

ブックマークを消去するには

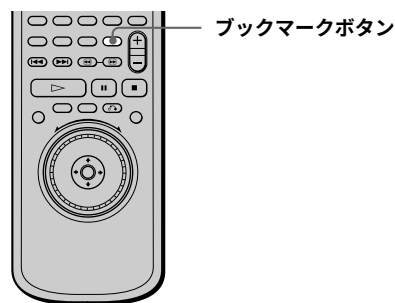
←/↑/↓/→でブックマークを解除したい場面を選び、クリアボタンを押します。

登録しているすべてのブックマークを消去するには

設定画面の「視聴設定」の「ブックマークリセット」を選びます。すべてのブックマークの消去について詳しくは、58ページをご覧ください。

ブックマークを登録する

再生中に、ブックマークを登録したい場面でリモコンのブックマークボタンを押します。



💡 表示窓でブックマークの番号を見られます

選んでいるブックマークの番号が表示窓に表示されます。

見たい場面を簡単に探す（ビューアー）

ご注意

- ディスク200枚までブックマークを登録できます。200枚を超えると、古いブックマークから上書きされます。
- ディスクによってはブックマークを登録できない場合があります。
- 本体の①スイッチを押して電源を切ると、設定が解除される場合があります。電源を切るときは、■を押して再生を止めてからリモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯し、スタンバイモード（待機状態）になったら、本体の①スイッチを押してください。
- ブックマーク表示中は音声は出ません。

設定と調整

ここでは、設定画面を使った設定と調整について説明します。
本機を初めてお使いになるときに必要な設定もあります。
付属のリモコンを使ったテレビやアンプの操作についてもここで説明しています。

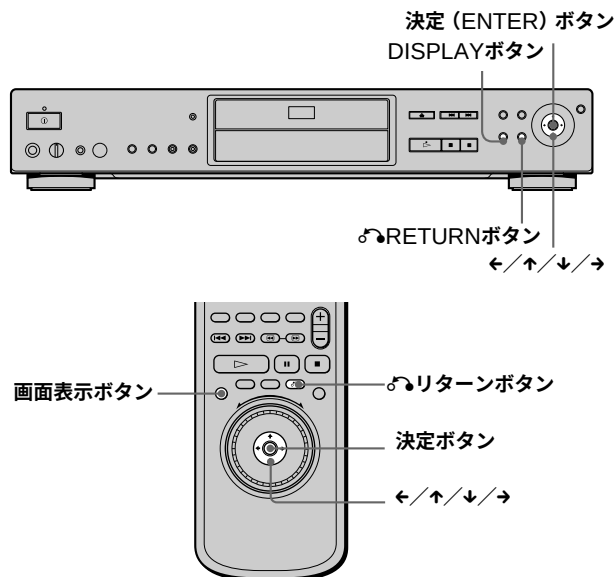
設定画面を使う

DVD VIDEO CD

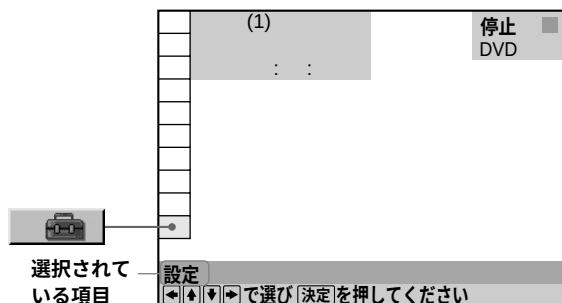
設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などでもできます。設定画面の項目について詳しくは、55～64ページをご覧ください。

ご注意

設定画面は本機が停止しているときのみ表示できます。

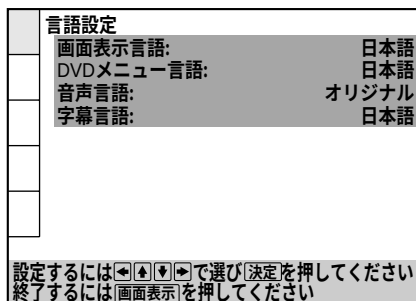


- 1 画面表示ボタンを押して、↑/↓で「設定」を選ぶ。



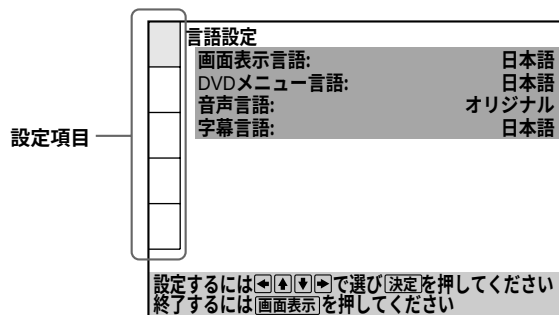
- 2 決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。



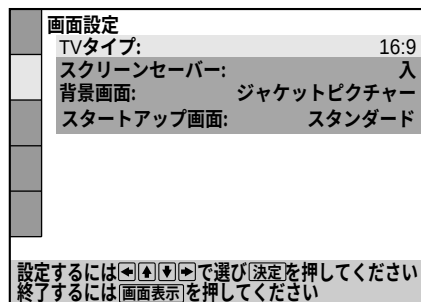
設定画面を使う

3 ↑/↓で設定項目を選ぶ。

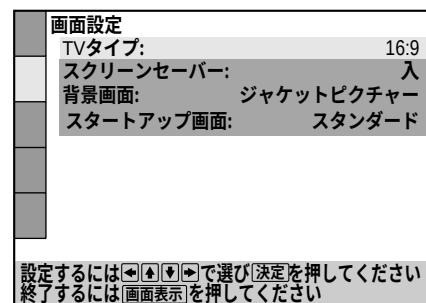


4 決定ボタンを押す。

設定項目が選ばれます。

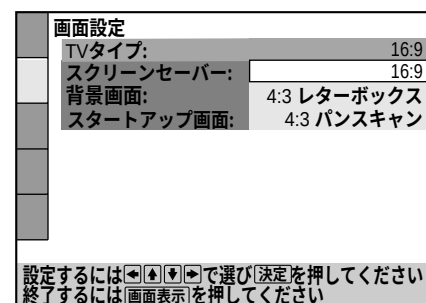


5 ↑/↓で項目を選ぶ。

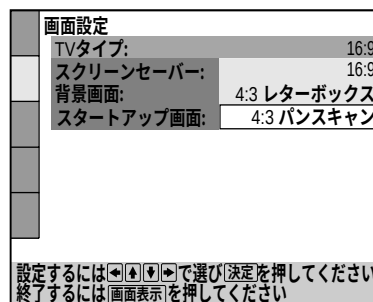


6 決定ボタンを押す。

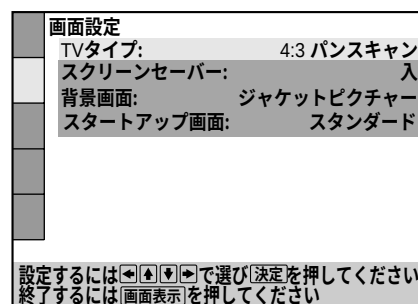
項目が選ばれます。



7 ←/↑/↓/→で設定内容を選ぶ。



8 決定ボタンを押す。



9 画面表示ボタンを押す。

設定画面が消えます。

10 画面表示ボタンを繰り返し押して、画面表示を消す。

ひとつ前の画面に戻るには

⏮リターンボタンを押します。

設定を途中でやめるには

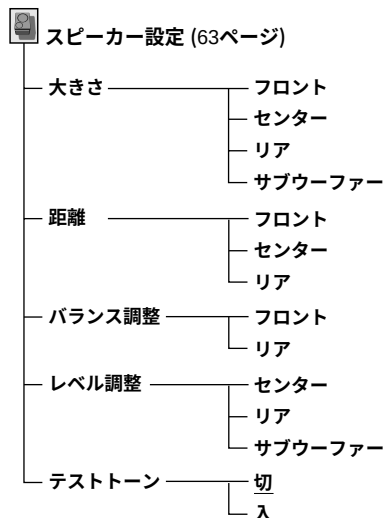
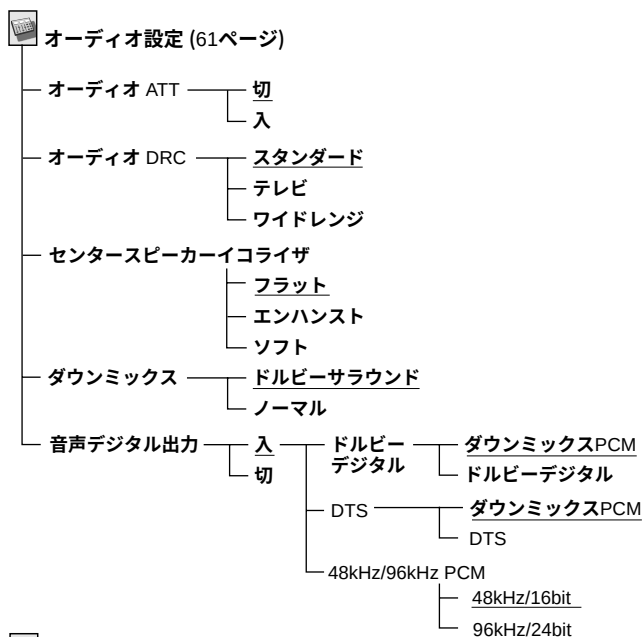
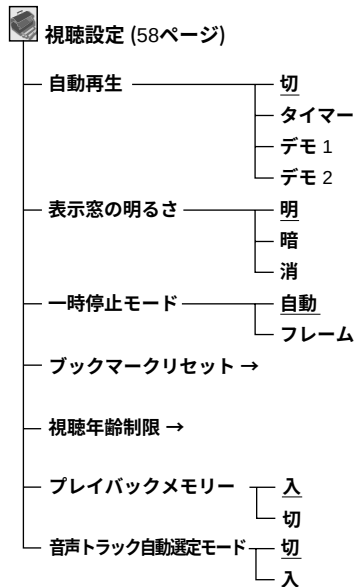
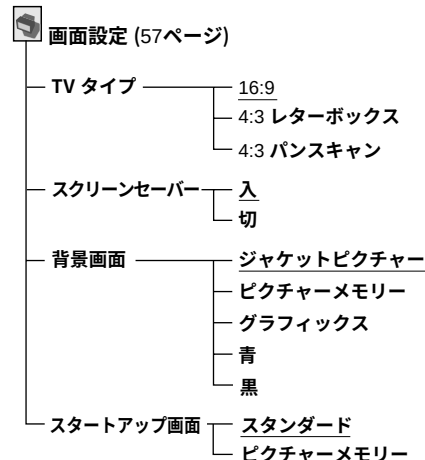
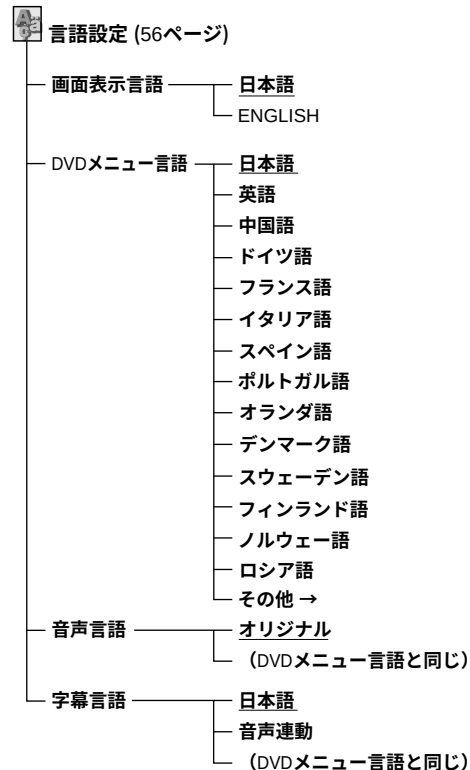
画面表示ボタンを押します。

ご注意

設定画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

設定画面項目一覧表

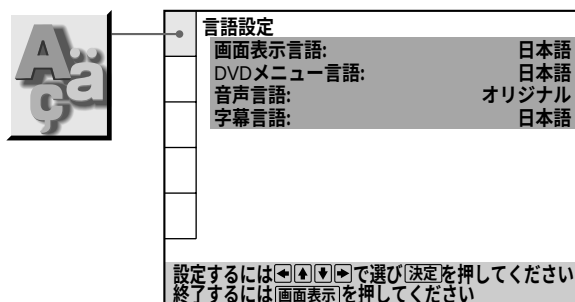
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「言語設定」を選びます。



ご注意

- DVDに記録されていない言語を選んだときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます（「画面表示言語」を除く）。
- 「DVDメニュー言語」または「音声言語」、「字幕言語」で言語を選んでも、DVDによっては選んだ言語で表示されないことがあります。

■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

- 日本語
- ENGLISH

■ DVDメニュー言語

DVDに記録されているDVDメニューの言語を切り換えます。

- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➡

「その他➡」を選んだときは、73ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 音声言語

DVDに記録されている音声の言語を切り換えます。

- オリジナル：ディスク内で優先されている言語
- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➡

「その他➡」を選んだときは、73ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 字幕言語

DVDに記録されている字幕の言語を切り換えます。

- 日本語
- 音声連動*
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➡

「その他➡」を選んだときは、73ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

*「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

画像に関する設定 (画面設定) DVD VIDEO CD

接続するテレビに合わせて設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「画面設定」を選びます。

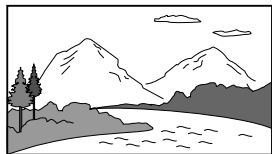


■ TVタイプ

接続するテレビのアスペクト比および、通常のテレビでDVDのワイド画像を再生するときに出力する画面の形を設定します。

- **16:9**：ワイドテレビまたは、ワイドモードのある通常のテレビで見るとき。
- **4:3 レターボックス**：通常のテレビで、ワイド画像を横長に表示して画面の上下には帯を入れるとき。
- **4:3 パンスキャン**：通常のテレビに、ワイド画像の一部を自動的にカットして画面全体に表示するとき。

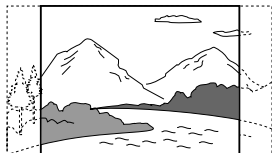
16:9



4:3 レターボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分たつと、CDを15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。これは画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。

- **入**：スクリーンセーバーを使う。
- **切**：スクリーンセーバーを使わない。

■ 背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

- **ジャケットピクチャー**：ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にする。
- **ピクチャーメモリー**：あらかじめ自分で本機に記録した画像を背景画面にする。画像を記録する方法は「画像を記録する」をご覧ください。
- **グラフィックス**：あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする。
- **青**：画面の背景色を「青」にする。
- **黒**：画面の背景色を「黒」にする。

ご注意

「ジャケットピクチャー」を選んでいるときに、ジャケットピクチャーが記録されていないディスクを再生すると、「グラフィックス」の画像が自動的に表示されます。

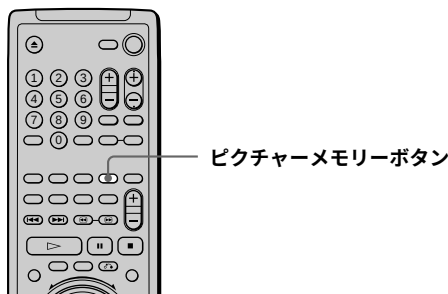
■ スタートアップ画面

本機の電源を入れたときに現れるスタートアップ画面を設定します。

- **スタンダード**：あらかじめ本機に記録されている画像をスタートアップ画面に設定する。
- **ピクチャーメモリー**：あらかじめ自分で本機に記録した画像を背景画面にする。画像を記録する方法は「画像を記録する」をご覧ください。
画像を記録する前に「ピクチャーメモリー」を選んだときは、あらかじめ本機に記録されている画像が現れます。

画像を記録する

再生中に記録したい画像を表示させて、リモコンのピクチャーメモリーボタンを押します。



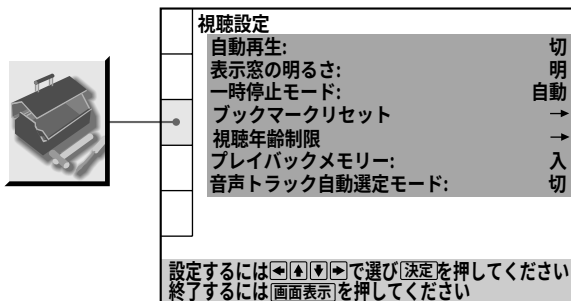
ご注意

- 本機に記録できる画像は1つだけです。記録された画像がピクチャーメモリーとして、背景画面とスタートアップ画面の両方で使われます。
- 画像を記録させると、前に記録されていた画像は消えます。
- 画像を記録させている途中で他の操作をすると、画像は記録されません。

視聴に関する設定 (視聴設定) DVD VIDEO CD

視聴年齢制限などを設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「視聴設定」を選びます。



■ 自動再生

コンセントをつないだときの動作を設定します。

- ・ **切**：「タイマー」、「デモ1」、「デモ2」を使わないで起動する。
- ・ **タイマー**：電源が入ったとき、自動で再生を始める。別売りのタイマーを使って希望の時刻に再生を始めることができます。タイマーでの時間の設定は本機がスタンバイモードのとき（本体の電源ランプが赤く点灯しているとき）に行ってください。
- ・ **デモ1**：デモンストレーション1を再生する。
- ・ **デモ2**：デモンストレーション2を再生する。

■ 表示窓の明るさ

本体の表示窓の明るさを調整します。

- ・ **明**：明るくする。
- ・ **暗**：暗くする。
- ・ **消**：本体の表示窓の表示を消す。

■ 一時停止モード (DVDのみ)

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

- ・ **自動**：大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られる。通常は「自動」にしておきます。
- ・ **フレーム**：動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる。

■ ブックマークリセット →

「ブックマークリセット」を選ぶと、ブックマークリセット画面が表示されます。そこで決定ボタンを押すと、本機に登録しているすべてのブックマークが消去されます。

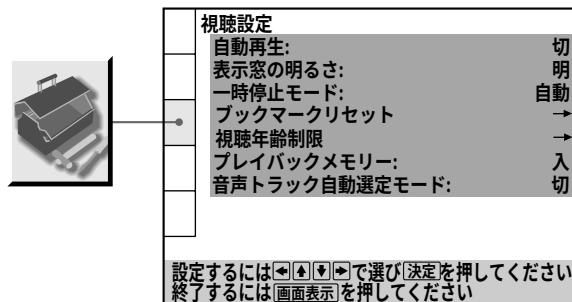
■ 視聴年齢制限 →

暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。視聴年齢制限とカスタム視聴制限 (41ページ) は同じ暗証番号を使います。詳しくは「年齢による視聴制限をする」をご覧ください。

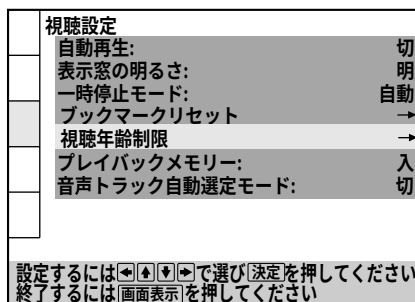
年齢による視聴制限をする DVD

DVDの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

設定画面で「視聴設定」を選びます。

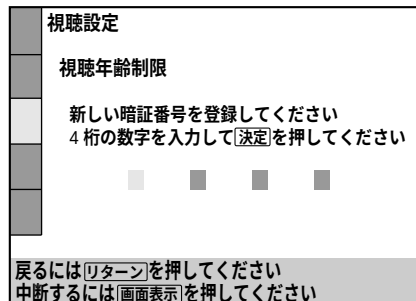


1 ↑/↓で「視聴年齢制限」を選んで、決定ボタンを押す。



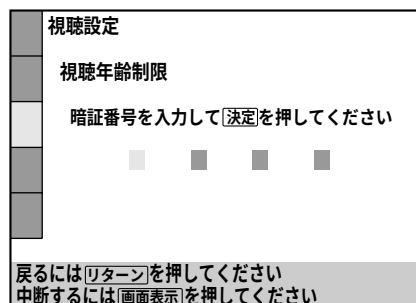
■ 暗証番号が登録されていないとき

暗証番号入力画面が表示されます。



■ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号確認画面が出ます。手順2をとばして手順3に進みます。



2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

決定ボタンを押すと、数字は「*」に変わり、暗証番号確認の画面になります。

3 暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。

4 ↑/↓で「使用する地域」を選んで、→を押す。

5 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選んで、→を押す。

「その他→」を選んだときは、次ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

6 ↑/↓で「レベル」を選んで→を押す。

7 ↑/↓で制限するレベルを選んで、決定ボタンを押す。

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

通常の画面に戻すときは

画面表示ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除してDVDを再生するときは

手順7で「レベル」を「切」にして、▷を押します。

視聴に関する設定（視聴設定）

暗証番号を変更したいときは

- 手順3で↑/↓を使って「暗証番号変更」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号変更の画面が出ます。
- もう1度手順2と手順3を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴制限のレベルを設定したディスクを再生するときは

- ディスクを入れて、▶を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
- 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。
DVDの再生をやめると、視聴制限のレベルは元に戻ります。

🔑 登録した暗証番号を忘れてしまったときは

視聴年齢制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- 暗証番号の設定をしないと、設定値の変更ができません。
- DVDによっては、再生中に視聴制限レベルの変更を要求されることがあります。このときは暗証番号を入力してレベルを変更してください。なお、停止すると元のレベルに戻ります。
- 視聴年齢制限とカスタム視聴制限（41ページ）は同じ暗証番号を使います。

地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	香港	2219
タイ	2528	マレーシア	2363
台湾	2543	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

■ プレイバックメモリー

各ディスクごとの「字幕」や「画質調整」などの設定をディスク200枚まで本機に記憶させておくことができます（プレイバックメモリー）。プレイバックメモリーの機能でディスクの設定を記憶させるかどうかの設定をします。

- 入：ディスクを取り出すときに設定を記憶する。
- 切：設定を記憶しない。

次の設定がプレイバックメモリー機能で記憶されます。

- 音声（34ページ）*
- 字幕（36ページ）*
- アングル（36ページ）*
- VIRTUAL 3D SURROUND（37ページ）
- 画質調整（48ページ）
- デジタルビデオエンハンサー（49ページ）
- * DVDのみ

ご注意

- 本機のプレイバックメモリー機能で記憶できるディスクは200枚までです。200枚をこえると、記憶された順序の古いものから記憶が消えます。
- DVDによっては優先する設定があらかじめ決められていることがあります。この場合プレイバックメモリー機能で設定しても、設定が優先されないことがあります。
- 本体の①スイッチを押して電源を切ると、設定が解除される場合があります。電源を切るときは、■を押して再生を止めてからリモコンの電源ボタンを押してください。電源ランプが赤く点灯し、スタンバイモード（待機状態）になったら、本体の①スイッチを押してください。

■ 音声トラック自動選定モード

複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- 切：優先しない。
- 入：優先する。

ご注意

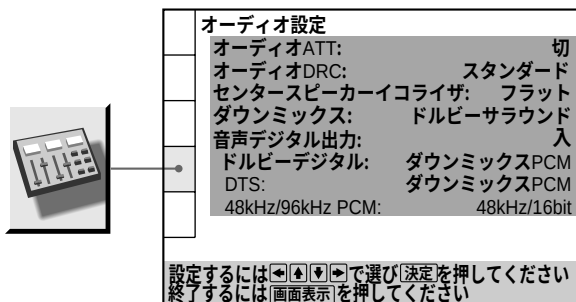
- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（56ページ）より優先されるためです。
- 「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」で「入」を選び、「DTS」を「ダウンミックスPCM」に設定していると、「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んで、DTS音声チャンネル数が最も多くても、DTS音声は再生されません。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じだった場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声チャンネル数があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

音声に関する設定 (オーディオ設定)

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「オーディオ設定」を選びます。



■ オーディオATT (attenuation)

音が歪むときにこの設定を「入」にします。本機の音声出力レベルを低くします。接続している機器にあわせて、AUDIO OUT端子からの出力を選びます。

- 切：「オーディオATT」を働かせない。
通常は「切」にする。
- 入：音が歪まないように音声の出力レベルを低くする。
テレビのスピーカーからの音が歪むときなどにこの設定を選ぶ。

ご注意

この設定はDIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からの出力には影響しません。

■ オーディオDRC (Dynamic Range Control)

DVDの音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオDRC機能のあるDVDを再生しているときのみ効果があります。この機能は、AUDIO OUT端子からの出力および「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」、「DTS」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子の出力に働きます。

- スタンダード：通常は「スタンダード」にする。
- テレビ：小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果がある。
- ワイドレンジ：臨場感のある音になる。5.1CH OUTPUT端子をつないで、ドルビーデジタルディスクを再生しているときのみ効果がある。また、高品質のスピーカーを使うとさらに効果を得られる。

ご注意

オーディオDRC機能のないDVDを再生しているときは、効果がありません。

■ センタースピーカーイコライザ

セリフなどが聞きとりにくいときなどに、言葉をはっきりと聞こえるようにします。センタースピーカーを5.1CH OUTPUTのCENTER端子につなげておく必要があります。

- フラット：録音されているままにセリフを出力する。
- エンハンスト：セリフを強調する。
- ソフト：8kHz以上の周波数のセリフに丸みをつけて、やわらかく聞こえるようにする。セリフが甲高く聞こえるときに選ぶ。

■ ダウンミックス

LS (リア：左) またはRS (リア：右)、S (リア：モノラル) などのリア信号成分を含むドルビーデジタル方式で記録されているDVDを再生するとき、ダウンミックスの方式を切り換えます。リア信号成分について詳しくは、「再生しているチャンネルを表示する」(35ページ)をご覧ください。

DIGITAL OUT端子からの出力に「ダウンミックス」の設定を反映させるには、「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定してください。

- ドルビーサラウンド：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応しているオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）の効果のかかった出力信号が2チャンネルにダウンミックスされる。
- ノーマル：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）効果がかかっていない信号が出力される。

■ 音声デジタル出力

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力する音声信号の方式を切り換えます。

- 入：通常は「入」にする。「入」を選んだら、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定する。設定について詳しくは、次ページの「音声デジタル出力の信号を設定する」をご覧ください。
- 切：DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から音声信号を出力しない。「切」を選ぶとデジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられる。

ご注意

「切」を選んでいるときは、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定できません。

音声デジタル出力の信号を設定する

DIGITAL OUT OPTICALまたはCOAXIAL端子に、光デジタル接続コードや同軸デジタル接続コードを使って、次のような機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。

ーデジタル端子のあるアンプ

ードルビーデジタルまたはDTSデコーダー内蔵のオーディオ機器

ーMDデッキまたはDATデッキ

接続について詳しくは、14ページをご覧ください。

「音声デジタル出力」で「入」を選んでから、「ドルビーデジタル」、「DTS」および「48kHz/96kHz PCM」を設定してください。

オーディオ設定	
オーディオATT:	切
オーディオDRC:	スタンダード
センタースピーカーイコライザ:	フラット
ダウンミックス:	ドルビーサラウンド
音声デジタル出力:	入
ドルビーデジタル:	ダウンミックスPCM
DTS:	ダウンミックスPCM
48kHz/96kHz PCM:	48kHz/16bit
設定するには[←][→][↑][↓]で選び[決定]を押してください 終了するには[画面表示]を押してください	

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

■ ドルビーデジタル

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。

- **ダウンミックスPCM**：ドルビーデジタルの音声を再生すると2chにダウンミックスされる。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる。
- **ドルビーデジタル**：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵したオーディオ機器につないで音を出すときに選ぶ。
ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがある。

■ DTS

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するDTS信号の方式を選びます。

- **ダウンミックスPCM**：DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。

DTS信号を出力したときに、DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子からステレオ音声出力されます。

- **DTS**：DTSデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。

DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある。

■ 48kHz/96kHz PCM (DVDのみ)

DIGITAL OUT OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するオーディオ信号のサンプリング周波数を選びます。

- **48kHz/16bit**：DVDのオーディオ信号は48kHz/16bitに変換されて出力される。
- **96kHz/24bit**：96kHz/24bitの信号を含むすべての信号がそのまま出力される。ただし、著作権保護のための信号が含まれているときは48kHz/16bitで出力される。

ご注意

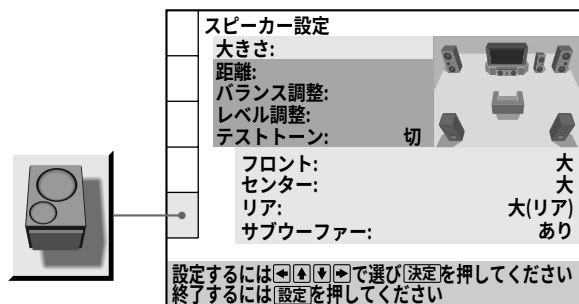
- 96kHzに対応していないアンプなどをつないでいるときに、96kHz/24bitを選ぶと、音が出なかったり突然大音量が出ることがあります。
- 96kHz/24bitに設定しているときでも、VIRTUAL 3D SURROUNDモードが選ばれているときは、サンプリング周波数は48kHz/24bitに変換されます。
- 音声信号がAUDIO OUT 端子から出力されるときは、サンプリング周波数は元のレベルのままアナログ信号に変換されて出力されます。

スピーカーの設定をする (スピーカー設定)

ドルビーサラウンドを充分に楽しむために、つないだスピーカーの大きさと、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。次にテストトーンを使って、各スピーカーの音量とバランスが同じレベルになるように調整します。この設定は、5.1CH OUTPUT端子でスピーカーを接続している場合に有効です。スピーカーの接続については、16ページをご覧ください。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「スピーカー設定」を選びます。



■ 大きさ

つないだスピーカーの大きさを選びます。

• フロント

- 大：通常は「大」にする。
- 小：音が歪んだときは「小」にする。低域再配分回路が働き、フロントスピーカーの低域成分はサブウーファーから出力されます。

• センター

- なし：センタースピーカーを接続しない場合は「なし」にする。
- 大：通常は「大」にする。
- 小：音が歪んだときは「小」にする。低域再配分回路が働き、センタースピーカーの低域成分は他のスピーカーから出力されます。

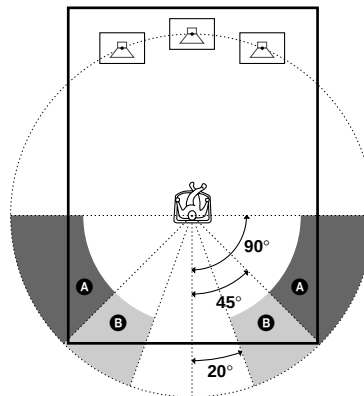
• リア

- なし：リアスピーカーを接続しない場合は「なし」にする。
- 大 (リア*/サイド*)：通常は「大」にする。リアスピーカーの位置によりどちらかを選ぶ。
- 小 (リア*/サイド*)：音が歪んだときは「小」にする。リアスピーカーの位置によりどちらかを選ぶ。低域再配分回路が働き、リアスピーカーの低域成分は他のスピーカーから出力されます。

• サブウーファー

- なし：サブウーファーを接続しない場合は「なし」にする。低域再配分回路が働き、フロントスピーカーのサイズが「大」に設定されているときは、サブウーファーのLFE (低音増強) 信号はフロントスピーカーから出力されます。
- あり：サブウーファーを接続した場合は「あり」にする。LFE (低音増強) 信号はサブウーファーから出力されます。

- * リアスピーカーの位置 (リア/サイド) について
「VIRTUAL REAR SHIFT」、「VIRTUAL MULTI REAR」および「VIRTUAL MULTI DIMENSION」などコントロールメニュー画面の「VIRTUAL 3D SURROUND」の効果を楽しむために、リアスピーカーの位置を正しく設定してください。下図をご覧ください。
 - リアスピーカーの位置がAの範囲にあれば、「サイド」に設定します。
 - リアスピーカーの位置がBの範囲にあれば、「リア」に設定します。
- この設定は「VIRTUAL REAR SHIFT」、「VIRTUAL MULTI REAR」および「VIRTUAL MULTI DIMENSION」を選んだときにのみ効果があります (37ページ)。



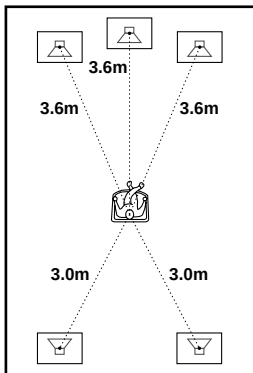
ご注意

- 本機ではサブウーファーのカットオフ周波数は120Hzに固定されています。
- ご使用のスピーカーで低音再生が充分にできない場合は、すべてのスピーカー設定を「小」に設定して、低音再生用にサブウーファーをお使いいただくことをおすすめします。

スピーカーの設定をする（スピーカー設定）

■ 距離

各スピーカーの距離は次のように設定します。



スピーカーを動かしたときは、スピーカーの位置に合うように設定を変えてください。なお、カッコ内の数値はお買い上げ時の設定値です。

- フロント（3.6m）
1m～15mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
- センター（3.6m）
フロントスピーカーから0.6m離れた距離からリスニングポジションに1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
- リア（3m）
フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに5m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでクリアボタンを押します。

ご注意

- 両方のフロントスピーカーまたはリアスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。
- リアスピーカーをフロントスピーカーより遠くに設置しないでください。

■ バランス調整

各スピーカーの左右のバランスは次のように調整します。「テストトーン」を「入」に設定しておくとも簡単に調整できます。

なお、カッコ内の数値はお買い上げ時の設定値です。

- フロント（0dB）
-6dB（L）～+6dB（R）の範囲で、0.5dB刻みでフロントスピーカーの左と右のバランスを調整します。
- リア（0dB）
-6dB（L）～+6dB（R）の範囲で、0.5dB刻みでリアスピーカーの左と右のバランスを調整します。

お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでクリアボタンを押します。

■ レベル調整

各スピーカーのレベルは次のように調整します。「テストトーン」を「入」に設定しておくとも簡単に調整できます。なお、カッコ内の数値はお買い上げ時の設定値です。

- センター（0dB）
-6dB～+6dBの範囲で、0.5dB刻みでセンタースピーカーのレベルを調整します。
- リア（0dB）
-6dB～+6dBの範囲で、0.5dB刻みでリアスピーカーのレベルを調整します。
- サブウーファー（0dB）
-10dB～+10dBの範囲で、0.5dB刻みでサブウーファーのレベルを調整します。

お買い上げ時の状態に戻すには

項目を選んでクリアボタンを押します。

■ テストトーン

スピーカーからテストトーンを聞くことができます。5.1CH OUTPUT端子で接続しているときにこの設定をして、「バランス調整」と「レベル調整」を調整します。

- 切：テストトーンは出ない。
- 入：バランス、またはレベルを調整している間、調整しているスピーカーから順番にテストトーンが聞こえる。「スピーカー設定」の項目を選んでいるときは、テストトーンは左右のスピーカーから同時に聞こえます。

ご注意

テストトーンの設定を調整しているときは、音が一瞬途切れます。

スピーカーの音量を調整する

- 1 停止中に、設定画面で「スピーカー設定」を選び、決定ボタンを押す。
- 2 「テストトーン」を選び、「テストトーン」を「入」にする。各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。
- 3 リスニングポジションの位置から、「バランス調整」または「レベル調整」を選び、←/→で「バランス調整」を、↑/↓で「レベル調整」の設定を調整する。調整している間は、調整している左右スピーカーから同時にテストトーンが聞こえます。
- 4 調整が終わったら、「テストトーン」を「切」にして、テストトーンを消します。

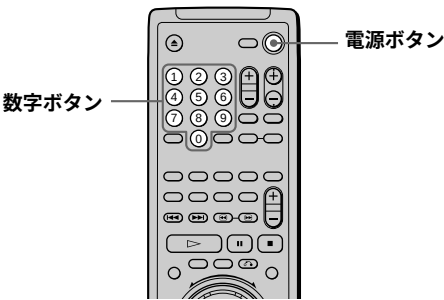
すべてのスピーカーの音量を同時に調整するには

アンプ側で音量調整をします。

付属のリモコンでテレビやアンプを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。
またAVアンプに本機をつないでいるときは、本機のリモコンでアンプの音量を調整することもできます。

リモコンで各社のテレビを操作する



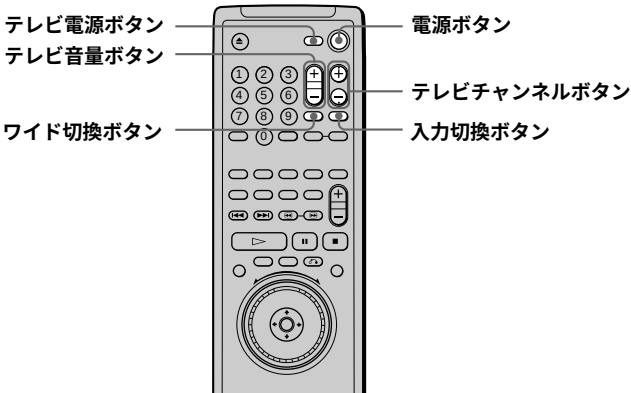
リモコンの電源ボタンを押したまま、テレビのメーカー番号(2桁)を数字ボタンで入力する。

メーカー番号
メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01 (お買い上げ時の設定)、12
松下電器	02、13
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機	07、15
シャープ	08、16
NEC	09
パイオニア	10
富士通ゼネラル	11
フナイ	14
アイワ	17
三星電子 (SAMSUNG)	18

- ご注意**
- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
 - リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に01 (ソニー) に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう1度合わせ直してください。

以下のボタンでテレビの操作ができるようになります。

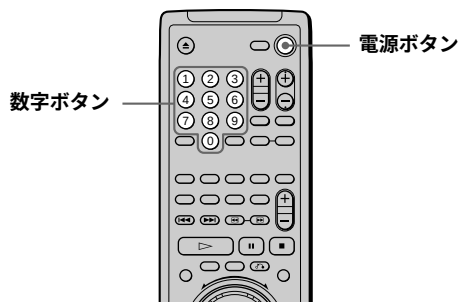


押すボタン	できること
テレビ電源	テレビの電源を入／切する。
テレビ音量	テレビの音量を調整する。
ワイド切替	テレビのワイドモードを切り換える。
テレビチャンネル	テレビのチャンネルを変える。
入力切替	テレビの入力を切り換える。

ご注意
テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。

付属のリモコンでテレビやアンプを操作する

AVアンプを操作する



リモコンの電源ボタンを押したまま、AVアンプのメーカー番号（2桁）を数字ボタンで入力する。

メーカー番号

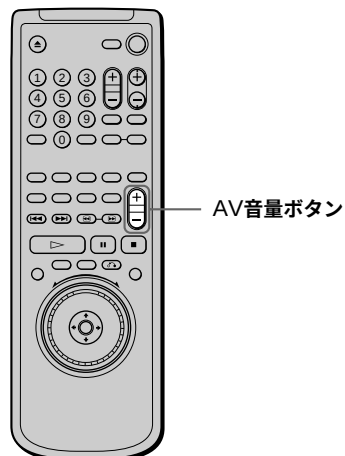
メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してAVアンプが操作できるものをお選びください。

AVアンプのメーカー	メーカー番号
ソニー	91（お買い上げ時の設定）、89
デンオン	84、85、86
ケンウッド	92、93
オンキヨー	81、82、83
パイオニア	99
山水電気	87
松下電器	97、98
ヤマハ	94、95、96

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に91（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう1度合わせ直してください。

AV音量ボタンでAVアンプの音量を調整できるようになります。



ご注意

接続する機種によっては、AVアンプの音量が調整できないことがあります。

その他

この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

映像

映像が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
- テレビの入力端子を間違えている（12ページ）。
- テレビの電源が入っていない。
- テレビの入力切り換えでCD/DVDプレーヤーの映像が映るようにしていない。
- ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/Pb/Pr）に本機を接続している。
S映像コードまたは映像コードで接続する。

映像が乱れる。

- ディスクに汚れや傷がある。
- 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続する（12ページ）。
- ハイビジョンテレビ専用のコンポーネントビデオ入力端子（Y/Pb/Pr）に本機を接続している。
S映像コードまたは映像コードで接続する。

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」で設定した画像アスペクト比で再生できない。

- 画像アスペクト比が固定されているディスクを再生している。

画面に英語でメッセージが表示される。

- 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」が「ENGLISH」になっている（56ページ）。

ビデオCDのメニュー画面が表示されない。

- PBC対応でないビデオCDを再生している。
- PBC対応のビデオCDで決められた操作をしていない。ビデオCDの取扱説明書もあわせて見る。

音声

音が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
新しい接続コードを使う。
- アンプの入力端子を間違えている（14ページ）。
- アンプまたはテレビの電源が入っていない。
- アンプの入力切換でCD/DVDプレーヤーの音声が
出るようにしていない。
- 一時停止、スロー再生になっている。
- 早送りまたは早戻しになっている。
- スピーカーの接続を確認する（16、17、63ページ）。
接続したアンプの取扱説明書もあわせて見る。
- ドルビーデジタルの音声をDIGITAL OUT
OPTICALおよびCOAXIAL端子から出力するとき
は、設定画面の「音声デジタル出力」を「入」に設定
する。「入」に設定しないと、DIGITAL OUT
OPTICALおよびCOAXIAL端子から音が出ない
（61ページ）。

雑音が多い。

- ディスクに汚れ、傷がある。
- CDのDTS音声を再生しているとき、AUDIO OUT
端子から雑音が出る（20ページ）。

音がひずむ。

- 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」
を「入」にする（61ページ）。

ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感が なく、モノラルのように聞こえる。

- コントロールメニュー画面で「音声」を「ステレオ」
にする（34ページ）。
- 正しく接続されているか確認する（12～17ページ）。

ドルビーデジタルやDTSの音声トラックを再生してい るのにサラウンド効果がからない。

- スピーカーの設定が間違っている
（16、17、63ページ）。
接続した5.1ch入力端子付きAVアンプの取扱説明書
もあわせて見る。
- ドルビーデジタルやDTSのディスクであっても、
5.1chすべてから出力されないもの（モノラルやステ
レオなど）がある。

センタースピーカーからしか音が出ない

- ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が
出ないものもあります。
- コントロールメニュー画面の「VIRTUAL 3D
SURROUND」で「切」以外を選んでいる
（37ページ）。

操作

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体との間に障害物がある。
- リモコンと本体との距離が離れている。
- 本体のリモコン受光部  に向けて操作していない。
- リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

- ディスクが入っていない（テレビ画面に「ディスクを
入れてください」の表示が出ている）。
- ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
- ディスクが斜めにずれて入っている。
- CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れて
いる（9ページ）。
- 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている
（8ページ）。
- 結露している。ディスクを取り出して電源を入れた
ままの状態約30分放置し、再び電源を入れ直して
から再生を始める（10ページ）。

再生がディスクの最初から始まらない。

- プログラムまたはシャッフル、リピート、A-Bリピート
再生になっている（43～48ページ）。
クリアボタンを押してこれらの機能を解除してから、
再生を始める。
- リジューム再生になっている。
停止中に、本体またはリモコンの （停止）ボタンを
押してから再生を始める（22ページ）。
- 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCの
メニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

- 自動的に再生が始まるDVDを入れている。
- 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「タイマー」
を選んでいる。（58ページ）

再生が自動的に止まる。

- ディスクによってはオートポーズ信号が記録されて
いるものがある。このようなディスクを再生すると、
オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。

- 操作を禁止しているディスクを再生している。
ディスクに付属の説明書もあわせて見る。

プレイモードのいろいろな再生（シャッフル再生、プログラム再生など）ができない。

- DVD、ビデオCDによってはできない場合がある。

希望する言語で画面表示されない。

- 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ（56ページ）。

音声言語を変更できない。

- 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
- 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

- 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
- 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

- 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

- 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。
- 表示窓のアングル表示が緑に点灯していない場合で、アングルを切り換えている（36ページ）。
- アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

- 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、本体の①（電源）スイッチを押して電源を切り、再び電源を入れる。

表示窓に何も表示されない。

- 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」にしている。「明」または「暗」にする（58ページ）。

画面および表示窓に5桁のアルファベットと数字が表示されている。

- 自己診断機能が働いている。70ページの表にしたがって対応する。

ディスクトレイが開かず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、CD/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

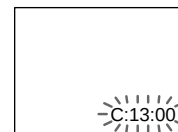
なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-S717D
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

自己診断機能について（アルファベットで始まる表示が出たら）

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で5桁のサービス番号（例：C 13 00）が表示され、点滅します。その際は次のように対応してください。



サービス番号の 最初の3桁	これが原因です	次のことを確認してください
C 13	ディスクが汚れている	柔らかい布でディスクを拭く（10ページ）
C 31	ディスクが正しく入っていない	ディスクを正しく入れ直す
E XX（XXは任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました。	お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の5桁すべてをお知らせください。 例：E 61 10

主な仕様

システム

形式	CD/DVDプレーヤー
信号方式	EIAJ標準、NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性	DVD (PCM 96 kHz再生時) : 2 Hz~44 kHz (±0.5 dB) * DVD (PCM 48 kHz再生時) : 2 Hz~22 kHz (±0.5 dB) * CD : 2 Hz~20 kHz (±0.5 dB) *
信号対雑音比 (S/N比)	115 dB* (AUDIO OUT1、2端子のみ)
全高調波ひずみ率	0.0018 %*
ダイナミックレンジ	DVD : 103 dB* CD : 99 dB*
ワウ・フラッター	測定限界 (±0.001% W PEAK) 以下*

出力端子

端子名	端子形状	最大出力 レベル	負荷インピー ダンス
AUDIO OUT (1、2)	ピンジャック	2 Vrms (50 kΩ)	10k Ω 以上
DIGITAL OUT (OPTICAL)	光出力 コネクタ	-18 dBm	発光波長 660 nm
DIGITAL OUT (COAXIAL)	ピンジャック	0.5 V _{P-P}	75 Ω 終端
VIDEO OUT (1、2)	ピンジャック	1.0 V _{P-P}	75 Ω 同期負
S VIDEO OUT (1、2)	4 ピンミニ DIN	輝度信号 : 1.0 V _{P-P} 色信号 : 0.286 V _{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
COMPONENT VIDEO OUT (Y, C _B /B-Y, C _R /R-Y)	ピンジャック	Y: 1.0 V _{P-P} C _B /B-Y、 C _R /R-Y : 0.7 V _{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
D1	D端子	Y: 1.0 V _{P-P} C _B /B-Y、 C _R /R-Y : 0.7 V _{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
5.1CH OUTPUT	ピンジャック	2 Vrms (50 kΩ)	10k Ω 以上
PHONES	ステレオ標準 ジャック	12mW以上 (可変最大)	32 Ω

電源、その他

電源	AC 100V、50/60 Hz
消費電力	16 W
最大外形寸法	430×74×260 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約3.1 kg
許容動作温度	5~35°C
許容動作湿度	25~80 %

付属品

11ページをご覧ください。

* EIAJ (日本電子機械工業会) の規格による測定値です。
96 kHz PCM音声の測定はAUDIO OUT (1、2) 端子を使用。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

視聴年齢制限 (58ページ)

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

タイトル (9、30ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りのいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたる。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

チャプター (9、30ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成され、それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。

デジタルシネマサウンド (DCS) (37ページ)

ソニーが開発したホームシアター用サラウンド技術のコンセプト名。従来の音楽演奏用の空間をベースとしたサラウンドとは違い、映画製作スタジオの音場をシミュレートした、「映画館の迫力を家庭で楽しむ」ためのサラウンドになっている。DCSにはさまざまなサラウンドプログラムが用意されている。たとえば、「VES (バーチャル エンハンスド サラウンド)」は、フロントスピーカー2台のみで後方に複数のスピーカーを配置したかのようなサラウンドを楽しむことができる。

トラック (9、30ページ)

CDやビデオCDに記録されている、映像や曲の区切り (1曲分) のこと。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ドルビーデジタル (15、62ページ)

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジック (61ページ)

ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

DTS (9、62ページ)

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ビットレート (41ページ)

DVDに圧縮して記録されている画像と音声の、1秒あたりの情報量を示す値。単位は画像の場合Mbps (Mega bit per second) で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表す。音声の場合の単位はkbps (kilo bit per second)。

この値が大きいほど情報量は多くなるが、必ずしも画質や音質とは直接関係しない。

ビデオCD (8ページ)

動画の記録されているCD。

ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。

また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。

ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC (プレイバックコントロール) 機能を持ったバージョン2.0がある。本機は両方のバージョンに対応している。

マルチアングル (36ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル (カメラの位置) で記録されていること。

マルチランゲージ (34、36、56ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

プレイバックコントロール (PBC) (24ページ)

ビデオCD (バージョン2.0) に記録されている、再生をコントロールするための信号。

PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面 (選択画面) を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

DVD (8ページ)

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。片面1層で4.7GB (Giga Byte) とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。

画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」を採用し、映像データを約1/40 (平均) に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。

またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

D1映像信号 (13ページ)

D端子付きデジタルテレビと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号で接続するため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2とD3端子がある。本機にはD1出力端子 (525i (480i) の信号に対応*) が付いており、D1、D2およびD3端子付きデジタルテレビに対応している。

* iはインターレースの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

言語コード一覧表 (詳しくは34、36、56ページをご覧ください。)

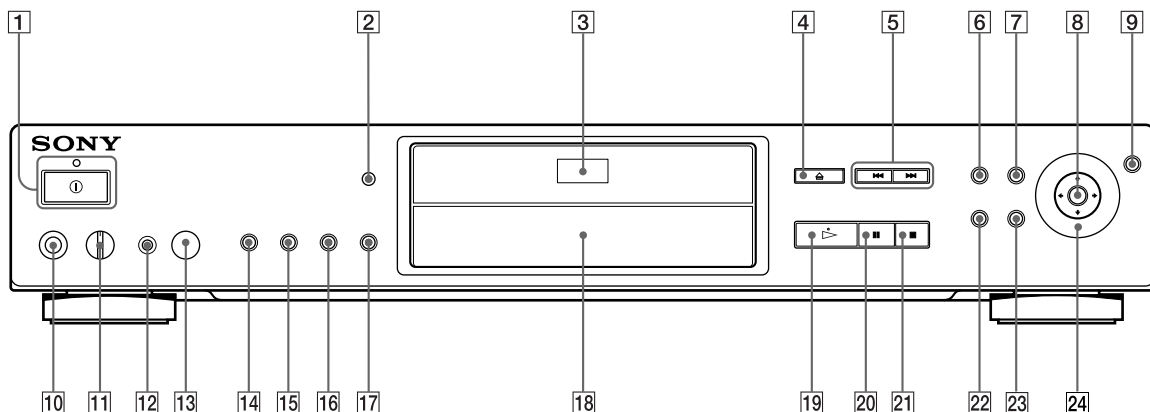
言語名表記はISO639:1988 (E/F) に準拠

コード 言語		コード 言語		コード 言語	
1027	Afar	1257	Hebrew	1506	Slovenian
1028	Abkhazian	1261	Japanese	1507	Samoan
1032	Afrikaans	1269	Yiddish	1508	Shona
1039	Amharic	1283	Javanese	1509	Somali
1044	Arabic	1287	Georgian	1511	Albanian
1045	Assamese	1297	Kazakh	1512	Serbian
1051	Aymara	1298	Greenlandic	1513	Siswati
1052	Azerbaijani	1299	Cambodian	1514	Sesotho
1053	Bashkir	1300	Kannada	1515	Sundanese
1057	Byelorussian	1301	Korean	1516	Swedish
1059	Bulgarian	1305	Kashmiri	1517	Swahili
1060	Bihari	1307	Kurdish	1521	Tamil
1061	Bislama	1311	Kirghiz	1525	Telugu
1066	Bengali; Bangla	1313	Latin	1527	Tajik
1067	Tibetan	1326	Lingala	1528	Thai
1070	Breton	1327	Laothian	1529	Tigrinya
1079	Catalan	1332	Lithuanian	1531	Turkmen
1093	Corsican	1334	Latvian; Lettish	1532	Tagalog
1097	Czech	1345	Malagasy	1534	Setswana
1103	Welsh	1347	Maori	1535	Tonga
1105	Danish	1349	Macedonian	1538	Turkish
1109	German	1350	Malayalam	1539	Tsonga
1130	Bhutani	1352	Mongolian	1540	Tatar
1142	Greek	1353	Moldavian	1543	Twi
1144	English	1356	Marathi	1557	Ukrainian
1145	Esperanto	1357	Malay	1564	Urdu
1149	Spanish	1358	Maltese	1572	Uzbek
1150	Estonian	1363	Burmese	1581	Vietnamese
1151	Basque	1365	Nauru	1587	Volapük
1157	Persian	1369	Nepali	1613	Wolof
1165	Finnish	1376	Dutch	1632	Xhosa
1166	Fiji	1379	Norwegian	1665	Yoruba
1171	Faroese	1393	Occitan	1684	Chinese
1174	French	1403	(Afan)Oromo	1697	Zulu
1181	Frisian	1408	Oriya		
1183	Irish	1417	Punjabi		
1186	Scots Gaelic	1428	Polish	1703	無指定
1194	Galician	1435	Pashto; Pushto		
1196	Guarani	1436	Portuguese		
1203	Gujarati	1463	Quechua		
1209	Hausa	1481	Rhaeto-Romance		
1217	Hindi	1482	Kirundi		
1226	Croatian	1483	Romanian		
1229	Hungarian	1489	Russian		
1233	Armenian	1491	Kinyarwanda		
1235	Interlingua	1495	Sanskrit		
1239	Interlingue	1498	Sindhi		
1245	Inupiak	1501	Sangho		
1248	Indonesian	1502	Serbo-Croatian		
1253	Icelandic	1503	Singhalese		
1254	Italian	1505	Slovak		

各部のなまえ

詳しい説明は () 内のページをご覧ください。

本体前面



1 ① (電源) スイッチとランプ (18)

本機の電源を入/切するときや、本体の① (電源) スイッチを押して電源を入れた後で、本機をスタンバイモード (待機状態) にするときに押す。

2 MULTICHANNELランプ

次のときに点灯します。

- ドルビーデジタル音声を再生中
- DTS音声を再生中
- ディスクが入っていないとき

3 ディスクトレイ (19)

再生するディスクを入れる。

4 ㊦OPEN/CLOSE (開/閉) ボタン (18)

ディスクトレイを出し入れするときに押す。

5 ◀◀/▶▶IPREV (前) / NEXT (次) (ダイレクトサーチダイヤル) ボタン (20)

前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。

6 TITLE (タイトル) ボタン (23)

タイトルメニューを出すときに押す。

7 DVD MENU (DVDメニュー) ボタン (23)

DVDメニューを出すときに押す。

8 ◀/▶/⏮/⏭/ENTER (決定) ボタン (23)

画面に表示されている項目を選ぶときに使う。

9 JOGボタンとランプ (21)

速さを変えてコマ送りで再生したいときに押す。

10 PHONES (ヘッドホン) 端子 (40)

ヘッドホンをつなぐ。

11 PHONE LEVEL (ヘッドホン音量) つまみ (40)

ヘッドホンの音量を調整する。

12 VIRTUAL SURROUND HEADPHONESボタンとランプ (40)

「VIRTUAL SURROUND HEADPHONES」の項目を選ぶときに押す。ランプは項目が選ばれているときに点灯します。

13 ㊦(リモコン受光部) (11)

リモコンからの信号を受信する。

14 SHUFFLE (シャッフル) ボタン (45)

シャッフル画面をテレビ画面に出したいときに使う。

15 REPEAT (くり返し) ボタン (46)

リピート再生画面をテレビ画面に出したいときに使う。

16 DVE (デジタルビデオエンハンサー) ボタンとランプ (49)

デジタルビデオエンハンサーのレベルを調整するときに押す。ランプは「デジタルビデオエンハンサー」を「切」に設定していないときに点灯します。

17 VIRTUAL 3D SURROUNDボタンとランプ (39)

「VIRTUAL 3D SURROUND」の項目を選ぶときに押す。ランプは「VIRTUAL 3D SURROUND」を「切」に設定していないときに点灯します。

18 表示窓 (25)

再生時間などを表示する。

19 ▷ (再生) ボタン (19)

再生するときに押す。

20 || (一時停止) ボタン (18)

再生を一時停止するときに押す。

21 ■ (停止) ボタン (20)

再生を止めるときに押す。

22 DISPLAY (画面表示) ボタン (27)

コントロールメニューを表示させるときに押す。

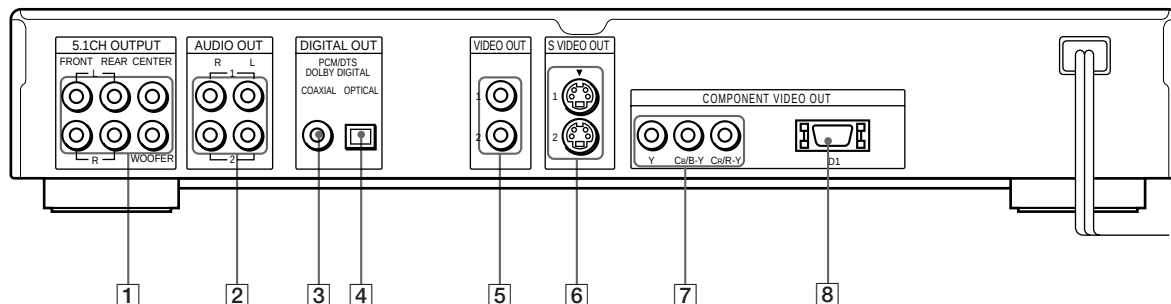
23 〻RETURN (リターン) ボタン (24)

主にひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

24 クリックシャトル (21)

主に速さを変えながら再生したいときに使う。

本体裏面



チャンネル アウトプット

① 5.1CH OUTPUT端子 (17)

5.1ch入力対応アンプとつなぐときに使う。

オーディオ アウト

② AUDIO OUT (1、2) (音声出力) 端子 (12、14)

テレビやアンプの音声入力端子とつなぐときに使う。

デジタル アウト コアキシャル

③ DIGITAL OUT COAXIAL (音声デジタル出力 (同軸)) 端子 (14)

同軸デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。

デジタル アウト オプチカル

④ DIGITAL OUT OPTICAL (音声デジタル出力 (光)) 端子 (14)

光デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。つなぐ前にキャップをはずす。

ビデオ アウト

⑤ VIDEO OUT (1、2) (映像出力) 端子 (12)

テレビやモニターの映像入力端子とつなぐときに使う。

エス ビデオ アウト

⑥ S VIDEO OUT (1、2) (S映像出力) 端子 (12、14、17)

テレビやモニターのS映像入力端子とつなぐときに使う。

コンポーネント ビデオ アウト

⑦ COMPONENT VIDEO OUT (コンポーネントビデオ出力) 端子 (13)

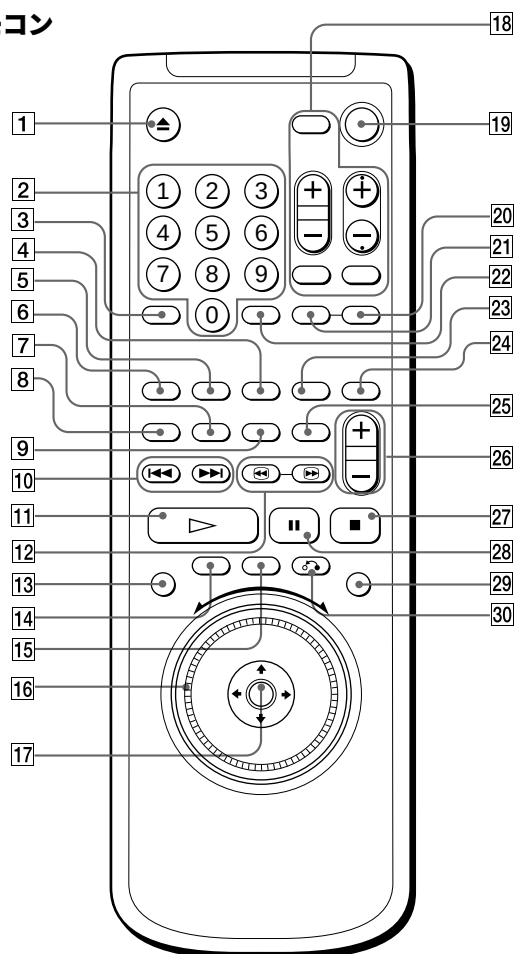
本機の出力信号に対応したコンポーネントビデオ入力端子 (Y、Cb/B-Y、Cr/R-Y) のあるテレビやプロジェクターにつなぐときに使う。

⑧ D1端子 (13)

本機の出力信号に対応したD1映像入力端子のあるテレビにつなぐときに使う。

各部のなまえ

リモコン



- 1 合/開ボタン (20)
ディスクトレイを出し入れするときに押す。
- 2 数字ボタン (24)
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。
- 3 クリアボタン (44)
選んだ項目を取り消すときに使う。
- 4 くり返しボタン (46)
リピート画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 5 プログラムボタン (44)
プログラム画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 6 シャッフルボタン (45)
シャッフル画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 7 アングルボタン (37)
DVDのアングルを切り換えるときに押す。
- 8 音声ボタン (34)
DVDやビデオCDの音声を切り換えるときに押す。
- 9 字幕ボタン (36)
DVDの字幕を切り換えるときに押す。
- 10 ◀◀/▶▶ (前) / (次) ボタン (20)
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。

- 11 ▷再生ボタン (20)
再生するときに押す。
- 12 ◀▶サーチボタン (21)
場面や曲を探すときに押す。
- 13 画面表示ボタン (27)
コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。
- 14 タイトルボタン (23)
タイトルメニューを出すときに押す。
- 15 DVDメニューボタン (23)
DVDメニューを出すときに押す。
- 16 クリックシャトル (21)
主に速さを変えながら再生したいときに使う。
- 17 ◀/↑/↓/▶ 決定ボタン (23)
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。
- 18 テレビ操作ボタン (65)
テレビを操作するときに使う。
- 19 電源ボタン (18)
本機の電源を入/切するときや、本体の①(電源)スイッチを押して電源を入れた後で、本機をスタンバイモード(待機状態)にするときに押す。
- 20 時間/テキストボタン (25)
表示窓に再生時間などを表示させるときに押す。
- 21 入力ボタン (34)
ディスクに名前をつけるときに押す。
- 22 決定ボタン
選んだ項目を決定するときに押す。
- 23 ピクチャーメモリーボタン (57)
画像を記憶させるときに使う。
- 24 DVE (デジタルビデオエンハンサー) ボタン (49)
デジタルビデオエンハンサーのレベルを調整するときに使う。
- 25 ブックマークボタン (51)
ブックマークを登録するときに使う。
- 26 AV音量ボタン (66)
AVアンプの音量を調整するときに使う。
- 27 ■停止ボタン (20)
再生を止めるときに押す。
- 28 ||一時停止ボタン (20)
再生を一時停止するときに押す。
- 29 ジョグボタンとランプ (21)
コマ送りするときに押す。
- 30 ⌂リターンボタン (24)
ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

索引

五十音順

ア行

アドバンスト 40
アングル 36, 51
アングルビューアー 51
安全のために 2
一時停止モード 58
インデックス 9, 30
大きさ 63
オーディオATT 61
オーディオDRC 61
オーディオ設定 61
お手入れ 10
音声 34
音声言語 36, 56
音声デジタル出力 61
音声トラック自動選定モード 60

カ行

カスタム視聴制限設定 41
画質調整 48
画面設定 57
距離 64
警告 4, 5
画面表示言語 56
言語設定 34, 36, 56
故障かな?と思ったら 67
コントロールメニュー画面 27

サ行

再生
シャッフル再生 45
速さを変えて再生 21
ふつうの再生 19
プログラム再生 43
リジューム再生 22
リピート再生 46
A-Bリピート再生 47
PBC再生 24
再生できるディスク 8
サブウーファー 63
シーン 9, 30
時間/テキスト 31, 32, 33
時間/メモ 31, 32, 33
視聴設定 58
視聴年齢制限 58
自動再生 58
字幕 36

字幕言語 36, 56
シャッフル 45
スクリーンセーバー 57
スタートアップ画面 57
ストロボ再生 50
スピーカー
接続 16
調整 64
スピーカー設定 63
設定画面 53
項目一覧表 55
接続 12, 14, 16
センタースピーカーイコライザ 61

タ行

タイトル 9, 30, 72
タイトルビューアー 50
タイトルメニュー 23
ダウンミックス 61
チャプター 9, 30, 72
チャプタービューアー 50
注意 6
ディスク
入れる 19
取り扱い 10
ディスクメモ 33
デジタルシネマサウンド(DCS)
37, 72
デジタルビデオエンハンサー(DVE)
49
テストトーン 64
電池 11
安全上のご注意 7
トラック 9, 30, 72
トラックビューアー 50
ドルビーデジタル 15, 62

ハ行

バーチャルエンハンスサラウンド
37
バーチャル3Dサラウンド 37
バーチャルサラウンドヘッドホン
40
背景画面 57
早送り 21
早戻し 21
バランス調整 64
ビットレート 41, 72
ビデオCD 8, 72

ビューアー 50
表示窓 25
表示窓の明るさ 58
ふつうの再生 19
ブックマーク 51
ブックマークリセット 58
プレイバックコントロール(PBC)
24, 72
プレイバックメモリー 60
プログラム 43
プロロジック 61

マ行

マルチアングル 36, 72
マルチランゲージ 34, 36, 56, 72

ラ行

リジューム 22
リピート 46
リモコン 11, 65
レベル調整 64

アルファベット/数字順

A-Bリピート 47
CD 8
CDテキスト 31, 33
D1映像出力 13, 72
DTS 9, 62, 72
DVD 8, 72
DVDテキスト 31, 33
DVDメニュー 23
DVDメニュー言語 56
DVE 49
PBC再生 24, 72
S映像出力 12, 14, 17
TVタイプ 57
16:9 57
4:3 パンスキャン 57
4:3 レターボックス 57
48kHz/96kHz PCM 62
5.1チャンネルサラウンド 16

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

● ナビダイヤル.....  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は..... 03-5448-3311

● Fax 0466-31-2595

受付時間:

月～金

9:00～20:00

土・日・祝日

9:00～17:00

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
フリーダイヤル 0120-37-8154

Sony  line <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。